

平成 27 年第 19 回

札幌市教育委員会会議録

平成27年第19回教育委員会会議

1 日 時 平成27年8月7日（金） 10時30分～16時20分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長 岡	豊 彦
委 員	山 中	善 夫
委 員	臼 井	博
委 員	池 田	光 司
委 員	池 田	官 司
委 員	阿 部	夕 子
教育次長	大 友	裕 之
生涯学習部長	長谷川	雅 英
学校教育部長	引 地	秀 美
教育推進課長	仙 波	晴 彦
学事係長	穴 田	卓 也
学事係員	大 西	俊 之
教育課程担当課長	長谷川	正 人
企画担当係長	工 藤	真 嗣
企画担当係長	横 道	幸 紀
指導主事	小 林	明 弘
指導主事	関 根	昌 彦
義務教育担当係長	佐 藤	圭 一
義務教育担当係長	野 田	隆 之
義務教育担当係長	伊 達	峰 史
義務教育担当係長	大 井	一 雄
指導主事	山 下	敦 史
指導主事	三 浦	敦 司
高等学校担当係長	幸 丸	政 貴
特別支援教育担当係長	荻 澤	吐 夢
研修担当係長	田 中	義 直
研修担当係長	岩 渕	浩 憲
総務課長	竹 村	真 一
庶務係長	井 上	達 雄

書 記

岡 部 歌 織

4 傍聴者 26名

5 議 題

協議第1号 平成28年度使用教科用図書を選定について

【開 会】

○長岡教育長 これより、平成27年第19回教育委員会会議を開会します。
本日の会議録の署名は、池田光司委員、阿部夕子委員にお願いします。

【議 事】

◎協議第1号 平成28年度使用教科用図書を選定について

○長岡教育長 本日は、これまでの2回の審議を受け、中学校用教科書並びに中等教育学校前期課程用教科書、高等学校並びに中等教育学校後期課程用教科書、特別支援教育用教科書の順に審議を行います。

中学校用教科書並びに中等教育学校前期課程用教科書については、国語と書写、数学、理科、保健体育、外国語、技術・家庭の技術分野と家庭分野、音楽の音楽一般と器楽合奏、社会の地理的分野と歴史的分野と公民的分野と地図、美術の順に審議を進めてまいりたいと考えていますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、このような形で進めていきたいと思えます。

まず、本日の審議に入る前に、前回までと同様、私から委員の皆さんに確認したいことがあります。

前回の教育委員会会議終了後、本日までに、皆さんには、特定の組織や団体あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 ただいま、皆様から影響力の行使や圧力等はなかったとの回答をいただきましたので、本日の私ども6人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保し得るものと判断します。

続いて、さらに2点確認したいと思えます。

前回までの審議において、各小委員会委員長と高等学校及び特別支援教育部の部長に、審議委員に対する団体、会社などから働きかけや影響力の行使、圧力等がなかったかとの質問をしましたが、いずれもありませんとの回答でしたので、調査研究に対する圧力等はなかったものと判断します。

また、小委員会委員長などの発言については、学校教育に携わる専門的な見地からの発言として参考にしてまいりましたが、本日の審議に当たりましても同様に考えたいと思えます。

この2点について、委員の皆様、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 なお、本日は、審議会委員でもある各担当指導主事に出席を求

めていますので、審議の中で必要があれば随時質問していただきたいと存じます。

それでは、中学校用教科書についての審議を始めます。

本日の審議では、前回までの審議において選定の候補とした教科書から1者を選定します。これまでもそうですが、各教科書の特長などから、札幌の子どもたち、中学生にとってどの教科書がより望ましいかという点を大切にして審議してまいりたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

それではまず、国語と書写から審議を始めます。

7月29日（水）の審議において、国語は「東京書籍」「三省堂」「光村図書出版」の3者を、書写は「東京書籍」「教育出版」「光村図書出版」の3者を選定の候補としたので、それぞれ1者を選定します。

前回の審議を踏まえて、さらに各委員からご質問がありましたらお願ひします。特にございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○**長岡教育長** それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を私なりに整理したところ、国語の場合は、読書活動への意欲を高めること、学ぶ意欲を高める工夫の観点などにおいて各教科書の特長や違いがありました。また、書写の場合は、読書との関連が図られること、文字を書くことへの取扱いの観点などにおいて各教科書の特長や違いがあるように思われました。この点についてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○**長岡教育長** それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたち、中学生にとって、どの教科書がより望ましいかということについて、各委員からご意見をいただきたいと考えます。

まず、山中委員からお願ひします。

○**山中委員** 国語、書写について、それぞれ順に意見を述べたいと思います。

まず、国語は正直に言って大変悩ましいところがありました。ただ、いろいろ考えて、以下申し上げる2点から、「光村図書出版」の教科書がよろしいのではないかと考えています。

まず1つは、札幌市教育委員会としては、読書活動について、特に学校図書館の活用を重視していますが、そういった関係で、「光村図書出版」では、中

学校の導入期に学校図書館を活用するという学習を掲載しており、生徒あるいは教員にそれを特に意識させるという形がとられていて、この点は大変プラスになるのではないかと考えています。

もう1点は、国語は他の教科とのつながりが大変深い教科だと思いますが、この点で、他の教科の学習、さらには生活とも結び付くような取り組みがなされており、生活に生かすことや他教科に生かす、あるいは他の領域に生かすということで、得た知識を活用することが可能な工夫がされていると思います。

国語については、そういった2点で「光村図書出版」がよろしいのではないかと考えています。

書写についても「光村図書出版」がよろしいのではないかと考えています。

その主な理由としては、国語の授業との関連を重視した方がよろしいかと思っています。同一の会社でなければいけないということではないようですが、基本的に国語の授業との関連をもたせる工夫がされています。

もう1点は、書写を進めていく上でいろいろと考えさせる工夫をしているように思います。具体的な考え方としては、1つの文字を書くことについても、筆使いのポイントについて、考えるべきことを最初から書いてしまうのではなく、穴埋め式の間いのような形を設けて自分で考えさせる工夫もしているようです。

その辺りから、「光村図書出版」がよいのではないかと考えています。

○長岡教育長 続きまして、池田光司委員、お願いします。

○池田（光）委員 私も、何回も振り返って悩んだ科目だと思っています。

私は、「三省堂」が、基礎を常に重点に置いて展開しているというところで、非常に価値があると思っています。それにプラスして、ほかのところもそうですが、現代物や昔の名作などが織り交ざって、読み味わうのに非常によいと思っています。

そういった観点から、「三省堂」を薦めたいと思います。

最後に、3年では、ブックノートということで、話すことと書くことの題材をきちんとテーマにしているところも含めて推薦することにしました。

それから、書写については、国語の授業との関連をもたせるというところはあると思いますが、「光村図書出版」は振り返りが非常に多くなっており、そのポイントが非常に高いということで、「光村図書出版」を推したいと思っています。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 まず、国語は、読書活動についての取扱いでは、学校の図書館の利用方法が非常に明確に記載されているという点と、本の紹介を各学年で数カ所されていると思うのですが、中学生にとっては非常に分かりやすいカテゴリー分けがされているという点があります。なおかつ、チェックボックスをつけられる仕組みになっていて、子どもたちは目標の設定もしやすく、私たち保護者にとっても非常に分かりやすい構成になっていると非常に感じたということで、「光村図書出版」がよいと思っています。また、学習意欲を高める学習活動の取扱いに関しても、習得と活用の積み重ねという意味でも非常に特長のかと考えましたので、「光村図書出版」がよいのではないかと考えています。

次に、書写ですが、こちらと同じく「光村図書出版」がよいと思っています。目次に3年間の目標を掲載されていて、子どもたちが学習の見通しを考えながら進めることができるようになってきている点と、情報を発信するというコーナーでは、ポスターセッションやレポートの活用というところで国語の授業と関連性をもたせた活動が非常に分かりやすく構成されているという点から、こちらでも「光村図書出版」がよいかと思っています。

○長岡教育長 続きまして、池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 国語は、読書活動について、すなわち、ただ本を読むことで終わるのではなく、そこで感じたこと、読み取ったことなどをほかの人と伝え合う、ディスカッションをする活動がどのように書かれているかが大事だと思いました。

そういう観点から、「三省堂」は、ポップや手紙など非常に豊富に入っており、伝え合うということについて、楽しい活動が非常に多く入っていると思います。しかし、全体を総合的に見ますと、ポスターセッションや、読書案内をする、読書生活をデザインする、読書紹介をしようなど、自分の感じたことを伝え合うということについては、「光村図書出版」の方がやや充実していると思いました。

そういう理由で、国語に関しては「光村図書出版」がよいと思いました。

書写に関しても、「光村図書出版」がよいと思いました。

一番よいと思ったのは、ポスターセッションについての紹介が非常に豊富であるということです。自分たちで得た情報を整理して、それを発信して、いかにほかの人に分かりやすくプレゼンテーションするかといった活動が非常によく取り上げられているという面から、書写に関しては「光村図書出版」がよいと思いました。

○長岡教育長 白井委員、お願いします。

○白井委員 まず、国語について申します。

私は、「光村図書出版」と「三省堂」の2つはほとんど遜色ないということで、今のところは2つともと思っています。

両方とも、取り上げている内容のバランス、文学作品も古典も現代のものも入っている。説明文についても、自然科学の分野で、しっかりとデータを見ながら文の論理性を確かめていくということで、両方ともよくバランスが取れていると思いました。

それから、「光村図書出版」の場合は、2者の新聞記事を比較するというものが載っていました。例えば、2年生では、羽生選手が金メダルをとったことについて、3年生では、和食がユネスコ文化遺産になったということについて比較しています。それに対して、「三省堂」は、富士山がユネスコの文化遺産になったということについての2つの記事を比較しています。ですので、記事のおもしろさからいうと、「三省堂」の富士山がよいと思います。片方では登山の初日にハイヒールなどの安易な格好の登山者が出てきたということで、一方の新聞社では批判があるということになっていて、対比しておもしろく書いてありました。

それから、「三省堂」の場合は、1年生では、巻末に学ぶ力を高めようというものがありません。これは、どの者もそうになっていますが、ほかは図が多いので、「三省堂」がとても読みやすいと思いました。

それから、両者ともそうですが、教材の文の後に著者の本の紹介があります。例えば、「光村図書出版」では、「クニマスの発見」がありましたが、それに伴って里山に関するものが出ています。「三省堂」も同じように、書いた内容に関連したものを載せ、さらに読書を深めてほしいということを行っています。正直、それぞれによいところがあって、なかなか遜色がないところです。

ただ、「光村図書出版」に1つ長があるとすれば、例えば、札幌市では進路探究学習を大変重視しています。国語は、国語の学習のみならず、他教科の学習活動につなげることがありますが、2年生の教科書に多様な方法で情報を集めようという中で、「職業ガイドをつくる」があります。これはほかの2者にはないところです。2年生になると、職業のことで職場訪問をすることから、実際に進路探究をすることというところから、「光村図書出版」が1つよいところがあると思います。

結論的に言うと、私は、「光村図書出版」と「三省堂」には今のところ全く差がないということでもあります。

書写に関しては、私は「光村図書出版」を推したいと思っています。

その理由は、書写の時間は、単に国語の補助的なことというよりも、ほかの発表などの関連があります。そう考えると、「光村図書出版」は、情報を発信することについて、ポスターセッションやレポートなどがあり、ほかの者も同じようなことをしていますが、この点では「光村図書出版」が一番分かりやすいと思います。

昔のように、いわゆる習字の時間であればもっと単純でしたが、今、書写については、狭い意味での習字だけではなくて、国語のみならず、学習との広いつながりということを考えています。こここのところでは、「光村図書出版」はほかの2者よりもわずかにプラスがあるということで、書写に関しては「光村図書出版」ということです。

○長岡教育長 今、それぞれの委員から国語、書写についてのご意見をいただきました。

まず、書写につきましては、5名の委員それぞれが「光村図書出版」ということでしたので、ここは異論のないところだと考えます。

国語については、池田光司委員は「三省堂」、臼井委員は「三省堂」と「光村図書出版」は遜色がないということでした。池田官司委員は、「三省堂」もよいところがいろいろとあるけれども、総合的に判断して「光村図書出版」というご意見でした。それから、山中委員と阿部委員は「光村図書出版」ということでした。このように、若干ですが、意見が割れています。

多数決ということではなくて、できる限り全体の合意を図って進めたいと考えていますが、今、全体的に5名の意見を受けて、まず、池田光司委員から、「三省堂」ということですが、どのようにお考えになるか、お聞かせいただけますか。

○池田（光）委員 私は、臼井委員と同じような考え方ですが、「三省堂」と「光村図書出版」は、同じようによいところが非常にたくさんあって、ディベートの討論ゲームなどについても、生徒にとっては身近な問題として入り込んでいけると思っていまして、そこは非常に大きなところでした。ただ、幾つかの観点で考えると、「光村図書出版」が大勢を占めているということも受け入れられるところがあると思って、本当に悩んでいます。

もう一巡の議論を受けて、最終的に判断したいと思っています。

○長岡教育長 臼井委員は皆さんの意見を聞いた上での話しでしたが、絞られる観点として、それぞれ皆さんから「光村図書出版」のよいところと「三省堂」のよいところについてのお話がありましたが、皆さんのご意見を再度確認

して、どちらでもということになりますか、それとも、優劣をつけるとしたらどちらかということになりますか。

○臼井委員 私も、正直に言って、優劣はなかなかつけにくいところがあります。

先ほど申したように、「光村図書出版」では、バランスの面でプラスがあります。それから、進路探究学習へのつながりということを取っているという点では、札幌市の教育目標とのつながりということはあるかという気がします。その一方で、「三省堂」は、巻末の資料の見方について、学ぶ力を高めようというところで図を多く使っていて、学習しやすいような工夫をされています。それで、先ほどそれぞれによいところがあると申しました。

いずれにしても、どちらになっても異論がないということです。

○長岡教育長 一方、「光村図書出版」というお話がございました阿部委員、山中委員、池田官司委員、その辺りはいかがでしょうか。ご意見がありましたらお願いします。

○池田（官）委員 素人的な見方、つまり印象になってしまいましたが、「三省堂」は、全体的に柔らかくて非常に親しみやすい感じがします。それに対して、「光村図書出版」は、少し深みがあるといえますか、内容的にも、もう一歩踏み込んだところが多いような気がしまして、印象で恐縮ですが、今言ったような意味合いから、私は「光村図書出版」を推したいと思っています。楽しくて親しみやすいというのも「三省堂」の非常に大きな特長だと思いますが、あえて「光村図書出版」を推したいと思います。

○池田（光）委員 「光村図書出版」は、教材ごとに生活や他教科に生かしている、いろいろな領域に活用できないかという精神のところ、「光村図書出版」の方が非常に勝っているところがあり、最終的にはそこが迷ったところでは。「三省堂」もそうですが、基礎的にいろいろなものを学んでいく、生活に生かす、他の教科に生かすというところも非常に捨てがたいところでは。そういう意味を強めるのであれば、「光村図書出版」もという気がしています。ただ、「三省堂」の基礎的なことや全体の流れみたいなものは非常に価値があると思っています。

したがって、最初は「三省堂」を推しましたけれども、今、皆さんのお話を聞いて、生活に生かす、他教科に生かすところを取り入れるという意味では、「光村図書出版」でも構わないかと感じています。ただ、「三省堂」が捨てが

たいという気持ちは非常に強いです。

○山中委員 それぞれによさがあることは大変よいことですし、そしてまた、こういうところでの議論を踏まえて、次のステップに向けて各者が他者のよさを取り入れていくということは当然考えると思います。今回、ある1者が採用されたからといって、それで終わりということではなく、さらによい教科書をつくっていただくように努力していただきたいと思います。

そういう意味で、結局1者に絞ることになったとしても、ここでの議論を各者で糧として生かしていただきたいと思います。採択そのものとは全く異なることですが、一言申し上げておきたいと思います。

○長岡教育長 私なりにまとめたいと思います。

今、臼井委員、池田光司委員からお話がありました。池田光司委員から、「三省堂」は、基礎に重点が置かれていて、展開も分かりやすい、読書の観点から、昔の名作の取り上げられ方が好ましいのではないかと、楽しく親しみやすいというお話がありました。

一方、全体において「光村図書出版」を推す委員の多くの意見で、中学校の早い段階での学校図書館との関わり、その辺りで利用方法を学習することができるのではないかとということでした。それから、生活や他の教科と関連するという部分で秀でているのではないかとということでした。また、ポスターセッションについて、書写もそうですが、読書案内等のところで多様な表現があるのではないかと意見がありました。

トータル的にご意見を集約させていただくと、「三省堂」というご意見が両者とも秀でているという意見もある中で、全体的に「光村図書出版」を推される意見があります。最終的に総合的な判断をしますと、国語については「光村図書出版」、書写についても「光村図書出版」が札幌市の中学生にとってより望ましいとことになるとは思います。ご異論はございますか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○池田(光)委員 山中委員がおっしゃったようなことをぜひ次回に取り入れていただければありがたいと思っています。

○長岡教育長 今回、国語については「光村図書出版」、書写についても「光村図書出版」を選定することとしますが、今の議論を糧にしまして、さらにス

テップアップできるような教科書を選定できるように、各者で参考にしていただければと考えます。

それでは、国語はそういうことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 次に、数学について審議します。

数学については、7月31日(金)の審議において「東京書籍」「学校図書」「教育出版」の3者を選定の候補としたので、この3者から1者を選定します。まず、前回の審議を踏まえ、さらに各委員からご質問等がありましたらお願いします。

○臼井委員 1つ伺いますが、例えば、中学校1年生の「学校図書」を見ますと、数学で使われる考え方というのがあります、これは、小学校のときとのつながりに関わってくることもあろうかと思えますし、非常に大事な考え方だと思いますが、実際に第1章の正の数、負の数から始まりますが、指導の上で授業の中で扱うということですか。

○小林指導主事 数学の授業の中で、例えば証明の学習などでは根拠が重視されています。また、学習指導要領の解説の中でも、使うだけではなくて、考え方について理解していくことも重視されています。

そのような中で、これは、今回から新しく掲載されている内容です。ただ、これまでの学習の中でも行っていましたように、1つ1つの問題を解く中で、3つの中のどれに対応しているか、全ての問題に対して扱うわけではありませんが、例えば、「学校図書」では、数学的な考え方の1、2として、それぞれの問題が最初に示したもののどのどれに対応しているかということを数多く掲載しています。全てではなく、学期の実態に応じて教師が取り扱うことが可能となっています。

○臼井委員 1年生が入ったときに、最初にこれを扱うというわけではなくて、全体を通じてと理解していいですか。

○小林指導主事 そうです。

○長岡教育長 ほかにございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 質問は以上とします。

前回の審議における小委員会の委員長の報告、質疑応答の内容を私なりに整理してみますと、数学の場合は、問題解決的な学習の充実、数学的な考え方を高める工夫の観点などによって各教科書の特長や違いがあるように思われました。そういう観点でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、そういった観点を中心に、札幌市の中学生、子どもたちにとってどの教科書がより望ましいのかということについて、各委員からのご意見をお願いします。

池田光司委員からお願いいたします。

○池田(光)委員 私は、問題解決やレポート、誤答のところのどれをとっても「学校図書」がすぐれていると思います。数学の場合は、生徒が置いていかれないかや、どれだけずっと興味をもち続けるか、そういったところがとても重要だと私は考えています。

その観点から言うと、問題解決のところでは、意欲を引き出すためにどんなことが行われているか、あるいは、段階において理解度を深める扱い方とか、それに付随した発表の仕方などを総合的に判断してみると、「学校図書」が一番すぐれていると思っています。

加えて、誤答のところですが、常に誤答が前提ではないところも数学に対する意欲をもたせるということも含めて、「学校図書」が今回は最適と思っています。

○長岡教育長 続きまして、阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私も、数学に関しては、「学校図書」がよいと思っています。

その理由としては、まず、レポートの取扱いというところで、各学年の巻末に、さらなる数学へというセクションがありまして、その中に、数学的な観点から、レポートのつくり方や発表の仕方などが非常に細かく詳細に書かれています。こちらの内容は、将来、子どもたちが社会に出てからも非常に役立つ内容が記載されているということで、ほかの教科書に比べると貴重かと感じます。

もう1点は、誤答の取扱いに関しても、正しいかなという言葉を使って、考

えながら最終的な答えを導くように子どもたちを誘導しているところが非常に特長的だと思います。

それから、要所要所に子どもたちのノートと同じような記載をしていただいでいて、ノートに書きやすいような誘導がされていることも非常に特長だという理由から、「学校図書」がよいのではないかと思います。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 私も、「学校図書」の教科書がよいと思いました。

その理由は、問題を解決していくような形の学習、課題を発見して、それを解決していくということにおいて、それぞれの単元の最初の呼びかけというのでしょうか、例えば、1年生の正の数、負の数でしたら、マイナスをついた負の数について、「学校図書」では、マイナスのついた数は何だろうという呼びかけであったり、「東京書籍」では、高い低いを見つけようということであったりするわけです。「学校図書」の最初の呼びかけや、身の回りでそれに関連したこれまで体験したことを見つけられるだろうかといった問題を身近なところから発見させるというところに工夫がされていて、非常に特長があると思いました。そこからさらに発展していった、ある数学的な概念を身に付けていってもらおうということで、導入部分が非常に工夫されていると思いました。

それが「学校図書」の最大の特長で、私はよいと思いました。

○長岡教育長 白井委員、お願いします。

○白井委員 私は、「東京書籍」と「学校図書」の両方がよいと思います。

「東京書籍」のつくりとして評価できる点は、あるコンセプトについて、入り口の説明がとても詳しい。例えば、連立方程式を2年生でします。ページ数で言うと「学校図書」も同じぐらいありますが、「東京書籍」は、入り口の部分を図式して、とても詳しいというところで、比較的、数学が苦手な子どもたちにとってみると入りやすい仕組みになっていると思います。

それから、この発行者は、数学マイノートで実際に生徒のノートを赤で追加説明する形になっています。できる子どもはきれいなノートをとると言われていますが、そういう意味で、分かったことをどうまとめるか、学び方の学習につながるという点が「東京書籍」の評価できるポイントです。

その一方で、「学校図書」のよいところは、冒頭に質問しましたが、数学的な考え方を全面に出して、それぞれのところでそれが具体的にいろいろと取り上げられているところが大きなポイントです。

がよいと思っています。あとは、学年ごとの発達段階を捉えて、それに対応できるようなことも工夫しているというところも理由にはなるかと思います。基本的なことは、最初に申し上げたことです。

○長岡教育長 各委員とも「学校図書」ということで、おおむね意見の一致は見られていると思います。

今、山中委員に総体的なまとめをしていただいています。そのとおりだと思います。それから、池田光司委員の意見として、数学というのは、どこかでつまづいて置いていかれるような懸念、ないしは興味をもたせ続ける観点からも、「学校図書」の取組としては、誤答を例に挙げて考えさせる、その上で意欲を引き出す、ないしは理解を深めるということを臼井委員も池田官司委員がおっしゃっていました。それから、正しいかなということ考えさせるということ阿部委員もおっしゃっていました。そのような観点から、「学校図書」という意見が各委員から出ました。

そのような集約でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、数学については、「学校図書」を選定することに決めたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、「学校図書」を選定することといたします。

続きまして、理科について審議を行います。

理科については、7月31日(金)の審議において「東京書籍」「学校図書」「啓林館」の3者を選定の候補としたので、この3者から1者を選定します。

まず、前回の審議を踏まえて、さらに各委員からご質問がありましたらお願いいたします。

○池田(光)委員 確認ですが、マイノートの取扱いについてです。

実際になくした子どもへの取扱いについて、もう一度、説明していただければと思います。

○野田義務教育担当係長 マイノートについても本冊についても、紛失した際には取り寄せることが可能になっています。本冊についても別冊についても、

紛失しないように、例えば、その日に扱うのであれば、必ず教科連絡係もしくは教科担任から重点的に指導するなり、前日のうちから置いておくなり、なくさないような工夫を各学校で行っていくことと思っています。

○池田（光）委員 別冊としての不便さなど、そういうことは特にないということですか。

○野田義務教育担当係長 活用の仕方です。

○長岡教育長 現場におけるトラブルは、全くないというわけではないにしても、そんなに大きなことにはなっていないということです。
ほかにございますか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、質疑応答等の内容を鑑みまして、内容を私なりに整理してみますと、理科の場合は、観察、実験に関する取扱い、科学的に探究する学習活動の取扱いなどの観点において3者で特長や違いがあるように思われますが、そんな観点でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、そういった観点を中心に、札幌市の子どもたち、中学生にとってどの教科書が望ましいのか、委員の意見をお願いします。
阿部夕子委員からご発言をお願いします。

○阿部委員 私は、「啓林館」がよいと思っています。

まず、理由の1つとしましては、時間の関係上、全ての観察や実験が実践的にできないということを前回確認したときに、臨場感のある教科書は子どもたちにとって非常に分かりやすく、特に「啓林館」の教科書に関しては、観察や実験について、写真なども非常に分かりやすく掲載されているという点と、全体的な臨場感を非常に感じます。そういった意味でも、「啓林館」が特に優れていると感じています。

もう一点としては、全体的に、まずは考えてみよう、話し合ってみようというところと振り返ってみようというところがセクションごとにあるところも非

常に分かりやすく、子どもたちもスムーズに入っていくのではないかと思います。

それから、最初は、マイノート自体が、何となく付録のような立ち位置なのかと思っていましたが、実際にお話を聞いてみると、付録というよりも、教科書と一体的になっていて、連動しながら子どもたちが活用できるものだということが分かりました。そういった意味でも、マイノートについても「啓林館」には特長があって、子どもたちも分かりやすい構成になっているという点から、「啓林館」がよいと思います。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 私は、「東京書籍」と「啓林館」で非常に迷います。

その2者の中から、「東京書籍」の教科書がよいと思いました。大きな差はないように思いますが、観察、実験に関する取扱いや科学的に探究するという観点から、「啓林館」と比べて「東京書籍」の方が最初の問いかけが全体的に少し広いという印象です。「啓林館」は回答を早目に提示する傾向があるのに対して、「東京書籍」はより広い問いで考えさせるという傾向があると思いました。計画して、実験して、その後、考察していくという科学的な探究の流れの筋道に関しては、「啓林館」よりも「東京書籍」の方がより明確に提示されているという特長があると思います。

これらから、「東京書籍」の教科書がよいと私は思いました。

○長岡教育長 臼井委員、お願いします。

○臼井委員 私は、「東京書籍」もなかなかよいと思ったのですが、第1位に推すのは「啓林館」です。

その理由は、既に何名かの委員がお話しされたことに加えて、「啓林館」では、「ふりかえり」というものを各所に入れていまして、小学校のときに学んだこと、あるいは中学校で学んだことを思い出しながら、新しい事象と関連付けをするということになっていて、これは理科の学習にとって1つ大事なポイントであろうかと思いました。

それから、マイノートについても、家庭での学習とつながりをよくしていて、学びを確実にするという点でもメリットがあるかと思います。

3つ目は、「啓林館」の最後に資料があるのですが、資料の中に「サイエンストラベラー」というものがあります。これは、地域の環境の資料ですが、札幌市の教育目標の中でも環境が重要なことになっています。もちろん札幌市の

ことを言っているわけではないですが、日本の中だけではなく、世界中の地域の地層や、そういう不思議なことをここで見ていくということです。ある面で、古生物学にもつながるし、植物・動物学にもつながり、多様なアプローチから環境を考えるということをしっかりもっている点で、私は「啓林館」を第1位に推します。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 大体出てしまったように思います。

私も、結論としては「啓林館」と思っております。1つだけ付け加えるとすれば、理科嫌いにならないようにという配慮かと思いますが、どの会社も同じように多く取り入れていますけれども、特に「啓林館」はコラムやコーナーを大変多く設けていると感じました。

○長岡教育長 池田光司委員、お願いします。

○池田（光）委員 私は、「東京書籍」か「啓林館」かをずっと悩んで迷いました。導入部分のところは「東京書籍」が優れていると思っています。特に、ビフォー・アフターのところなどで、チェックを入れて学びを振り返るところなどは非常に優れていると思っています。「東京書籍」と「啓林館」では甲乙つけがたいとずっと考えていました。

しかし、最終的には、今、意見がありましたように、コラムの充実度について、子どもたちが、ともするとかけ離れているように感じる理科の勉強の中で、働く人など身近な人たちに聞いてみようや、先人の知恵袋、なるほどなど、そういった観点で理科に興味をもたせるところがコラムとして非常に充実していると思います。山中委員とおっしゃったことと同じですが、そこは徹底的に優れていると思いました。コラムの充実は、理科の理解度を一層深めるもう1つの大きな要素だと捉えています。

そういう意味で、「啓林館」を推したいと思います。ただ、「東京書籍」も、本当に内容が充実していると思っています。

○長岡教育長 「啓林館」というご意見が多かった中で、池田官司委員が「東京書籍」ということでした。考えさせるということでは「東京書籍」の方がより広い間口をもっている、計画、実験、考察という科学的な探究という面からも「東京書籍」の方がより明確で優れているのではないかというご意見がありました。その他の4名は、最初に阿部委員がおっしゃった観点で、考えてみよ

う、話し合ってみよう、振り返ってみようというアプローチ、教科書自体が観察、実験の臨場感をもたせる工夫がされていて分かりやすいということでした。それから、マイノートについては、「啓林館」を推した皆さんは全員おっしゃっていたことだと思いますが、特長があって分かりやすい、また、家庭学習とのつながりを考えても、マイノートは学びを確実にするメリットがあるというご意見だったと思います。

4名が「啓林館」、池田官司委員は「啓林館」と「東京書籍」を比べて「東京書籍」ということですが、もう一度、皆さんの意見を伺った上で、池田官司委員のご判断はいかがでしょうか。

○池田（官）委員 まとめていただいたように、「東京書籍」は、間口が広く、生徒により考えさせるような導入をもっているということについてはそう思いますが、その後の実生活に結び付けていくような情報の豊富さということでは、確かに「啓林館」に特長があるとも思います。かつ、先ほど触れませんでした、マイノートは、拝見させていただいても、確かにいろいろな意味でよく工夫されていると思います。

ですから、最初に申し上げたように、「東京書籍」と「啓林館」は、微差といえますか、非常に大きな差があったと考えたわけではありませんので、「啓林館」を推していくということに特に異存はありません。

○長岡教育長 今、池田官司委員から、「東京書籍」と「啓林館」はそれほど大差がないということでした。それから、各委員から出た「啓林館」とする理由も、特にマイノートを1つ出して選考するとしたら、それは「東京書籍」にこだわるものではない、「啓林館」でも異存はないというご意見だったと思います。ほかの委員から何かご意見はありますか。

○池田（光）委員 コラムはどのようなのでしょうか。「啓林館」と「東京書籍」では、「啓林館」の方がとても親しみがあるような感じがします。その辺りは皆さんいかがでしょうか。

○長岡教育長 何かご意見があればお願いします。

○池田（光）委員 「東京書籍」は、学ぶ延長でのコラムのコーナーでは非常に内容があると思うのですが、最終的には、私の決め手はコラムのところ非常に大きかったので、皆さんはどうかと思いました。ただ、コラムの充実度は「啓林館」の方がよいと思いますので、「啓林館」でお願いできればと思いま

す。

○長岡教育長 皆様のご意見を伺わせていただきまして、マイノートや、今、池田光司委員からもありましたコラムの充実、そういった様々のご意見を出していただきましたけれども、「啓林館」が札幌の中学生の理科の教材として優れていて、より望ましいのではないかというご意見としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、理科については、「啓林館」を選定することとしますが、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、そのように決定します。

続きまして、保健体育について審議を行います。

保健体育については、7月29日(水)の審議において「東京書籍」「学研教育みらい」の2者を選定の候補としましたので、この2者から1者を選定することとします。

まず、前回の審議を踏まえ、さらに各委員からご質問がありましたらお願いします。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 前回の審議における小委員会の委員長の報告、質疑応答などの内容を私なり整理して、論点としては、保健体育の場合は、運動、スポーツへの主体性、健康を管理、改善する力を高める工夫や性に関する指導の観点などにおいて各教科書の特長や違いがあるように思われましたが、そういった論点でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、そういった観点を中心に、札幌の子どもたち、中学生にとってどの教科書がより望ましいのか、各委員からご意見を伺わせていただきます。

池田官司委員からご発言をお願いします。

○池田（官）委員 私は、「学研教育みらい」の教科書がよいと思いました。

医薬品や保健医療機関の利用について各者を比較してみたときに、「学研教育みらい」の記載が一番充実しているということです。さらに、全体的に、健康や保健に関するウォームアップという形で、身近なことに関しての問いかけは「学研教育みらい」が最も充実していると思いました。

以上により、私は、「学研教育みらい」の教科書がよいと思いました。

○長岡教育長 臼井委員、お願いします。

○臼井委員 私は、これも大きな差をもってということではなくて、ほんのわずかなメリットから、「学研教育みらい」を第一に推したいと思います。

1つの理由は、例えば、体づくりということが現実の問題に対してどう関わるかということを考えてときに、例えば、津波が発生したときにどうするかということなど、体づくりなど具体的なところがどういうところにつながっていくのかという生活面がよくできています。

それから、性指導の問題に関して言いますと、コラムで性感染症について注意喚起するような記事があります。これも、実際には各者も取り上げていることでありますので、大きな違いはありませんけれども、中学生にとっての親しみやすさ、読みやすさということでは、わずかですが、「学研教育みらい」にプラス点があるかということで、私は「学研教育みらい」を第一に推します。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 どう違うのか、あまり大きな違いがあるとは思えないというのが率直なところです。

今ご指摘があったようなことなどからいって、そういう言い方は大変失礼かもしれませんが、「学研教育みらい」でもよいのかと思います。正直に言って、どちらでなければいけないというほどの意見はもち合せていません。

どちらにするか、どちらでもよいという言い方は大変失礼だけれども、さらに皆さんのご意見も伺いながら、思うところがあれば申し上げるようにしたいと思います。

○長岡教育長 池田光司委員、いかがですか。

○池田（光）委員 私も、同じように、本当に遜色のないものをどう選ぶかということで随分悩みました。

私が前回質問させてもらったところが一番のポイントで、今の子どもたちの学校生活、家庭生活においてもそうかもしれませんが、ストレスについて前向きに捉えていくような学習がとても大事だと感じています。

そういう意味では、「学研教育みらい」の方がより充実していると思います。「東京書籍」ですと、同じところは野球の試合のミスなどですが、「学研教育みらい」は、テストがうまくいかなかったことなど、ストレスに対する事例が多く、なおかつ仲間とも話し合えるということもイメージさせているところが非常によいと思います。

ただ、「東京書籍」についても同じようなコーナーがあってもなかなか捨てがたいと思いますが、私は、「学研教育みらい」の方が充実しているかと思います。今後も、子どもたちのストレスをどう吸収していったらあげるかということのテキストはとても大事だと思いますので、ますます充実してもらえればありがたいと思っています。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私も、皆さんのご意見と同じように、どちらの教科書も甲乙つけがたいと思っています。その中で、「学研教育みらい」の方が今の中学生にとっては分かりやすいと思う点が2点あります。

まず、性に関する点ですが、性とどう向き合うかというところで、イラストを使って子どもたちの会話の流れを掲載していただいています。それが、「学研教育みらい」の方が現実味があるといいますか、確かにこういう会話は子どもたちの中で起こり得るという現実的な部分が非常に強いと思います。

それから、ストレスの解消法や対処法などはどちらも同じように掲載されていますが、未然に防ぐという意味だと思いますが、どちらもコミュニケーションのことで取り上げているところがあります。「学研教育みらい」は、コミュニケーションのとり方が、理由を伝えることや自分の気持ちを素直に伝えるというところがあり、大人でも難しいコミュニケーションの対処法ということを見ると、教科書を通して中学生のうちから学べるというのは非常に重要なポイントかと思います。

例題が「学研教育みらい」のほうが分かりやすいという意味で、私は「学研教育みらい」がよいと思います。

○長岡教育長 各委員とも、2者に大きな遜色はないということ的前提にしながらも、今、最終的に阿部委員から2点ということで集約していただいたような気がします。性に関する事、ストレスに関する事、そういった現実的に

起こり得るコミュニケーションなり話合いの中で分かりやすい会話が見られる、ないしは、ストレスについても、未然に防ぐといった例題を分かりやすく取り上げているのではないかというご意見がありました。

相対的に「学研教育みらい」ということですのでけれども、補足で各委員から何かご発言はございますか。

○臼井委員 先ほど申し上げるのを忘れていましたが、「学研教育みらい」を推す別な理由は、「探究しようよ」というコーナーをそれぞれのところに設けているということです。例えば、今で言うと、熱中症とその予防が書いてあり、適正体重を知ろうなど、身近で具体的なテーマについて課題を設定して、実際にどう調べるかが載っているのによいと思います。「東京書籍」でもありますが、「東京書籍」の場合には説明であるのに対して、「学研教育みらい」は、探究しようよという形で、子どもの主体的な学習をある意味で促すような仕組みをとっているという点で、「学研教育みらい」がプラスということで支持しました。

○長岡教育長 ほかにございますか。

○池田（光）委員 ドラッグのところをもう一回ご説明いただけますか。「学研教育みらい」ではドラッグのところあまり充実していなかったと思ったのですけれども、そここのところをお願いします。

○大井義務教育担当係長 具体的には、106ページから、薬物乱用に関わるという学習内容となっています。本文を中心に、薬物乱用のきっかけなどを学びまして、108、109ページですが、手を出さないようにするためにということで、断り方などについて、ロールプレーなどの実習を通じて学ぶというところがあります。

○池田（光）委員 「東京書籍」は少し詳しくあったと思いますが、「東京書籍」もコーナーがありますよね。

○大井義務教育担当係長 「東京書籍」でいいますと131ページですが、「考えてみよう」のところでは、飲酒について考えさせるという内容になっています。

○池田（光）委員 手を出させないためにというのは非常によいと思っていたものですから、ドラッグについて再確認させてもらいました。そういう意味で

大事だと思ったものですから、追加して発言させていただきました。

○長岡教育長 「東京書籍」も「学研教育みらい」も、薬物ないしはたばこ、酒の関係は、ページを割いてしっかり説明しているように思われます。

ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、委員全員から意見をいただいて、「学研教育みらい」が望ましいのではないかと思います、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、保健体育については、「学研教育みらい」を選定することといたします。

次は、外国語について審議を行います。

外国語については、7月31日(金)の審議において「東京書籍」「開隆堂出版」「光村図書出版」の3者を選定の候補としたので、この3者の中から1者を選定します。

まず、前回の審議を踏まえて、さらに各委員からご質問がありましたらお願いいたします。

○臼井委員 各者ともそうですが、「東京書籍」のニューホライズンのところで、例えば、ガーナというのはどんな国というのは3年生に習います。授業で、ベーカー先生とサキ、アレックスの会話を聞いて、ということがありますが、本文中にはありません。これは、CDなどで提供されているということですか。

○関根指導主事 委員がおっしゃるとおり、プレリスニングという形で、今後どのように本文を取り扱うか、興味等を湧かせるために、実際に本文とは異なるものを聞かせて本文に接続していくという構成になっています。

○臼井委員 ということは、教科書は子どもにしか行かないけれども、リスニングのものは教員用のものとしていくということですか。

○関根指導主事 そうです。

○長岡教育長 ほかにございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、質疑応答なりの内容を私なりに整理してみますと、外国語の場合は、目標をもって学ぼうとする意欲を高めること、小学校外国語活動との関連、英語の表現力を高める言語活動などの観点において各教科書の特長や違いがあるように思われますが、そういった観点でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたち、中学生にとってどの教科書がより望ましいかということについて、各委員からのご意見を伺わせていただきます。

まずは、臼井委員からお願いします。

○臼井委員 英語についてですが、私が第一に推すところは「開隆堂出版」です。幾つかの理由を申し述べます。

1つは、中学1年生になったときの導入部の指導ですが、アルファベットを書くことについて、どの者も扱っていますけれども、「開隆堂出版」が最も丁寧にやっているということです。

私は、文法的な事項も大事に思っているのですが、英語の仕組みというものを「開隆堂出版」でつくっており、例えば、3年生のところを見てみますと、英語の仕組みというところで、現在完了については、完了、継続、経験があるということです。私たち日本人にすると、時制のことはニュアンスとしてあまりなじみないのですが、図入りでかなり丁寧に書いてあります。私たち日本人が英語について学ぶときに、難しいことを分かりやすく書いてあるということがあります。

それから、最近、紙辞書を使う人が減ってきていますが、3年生を見てみますと、辞書を使いこなそうというところで、辞書のことが比較的詳しく書いてあります。

また、巻末の資料で、英語の歌はどの者も扱っていますが、「開隆堂出版」が英語の歌について詳しく書いています。

それから、3年生の最後を見ますと、付録で、英語でできるようになったことリストとして、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことについて、チェッ

クリストになっていて、3年間の学びということで、1年生、2年生、3年生とレベルごとに色分けにして、どこまでできるようになっているのかをチェックすることになっています。これも、自ら学ぶということに関わって、意欲につながるということがあります。

そのようなところから、「東京書籍」「光村図書出版」のそれぞれのよいところは分かるのですが、「開隆堂出版」が3者の中で一番充実しているというところで、「開隆堂出版」を推します。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 今、臼井委員からご指摘のあったところはそうだと思っていますが、私も「開隆堂出版」がよいのではないかと思っています。

私が一番心に響き、札幌の中学生にもそういったところを学んでほしいと思うのは、教材に、心を揺さぶり、豊かな感性を育むようなものを取り入れているところで、マララさんの話を取り入れているところが大変よいと思っています。

ご承知のように、マララさんの演説は大変感動的な内容でしたけれども、その国連での演説をそのまま載せています。1人の子ども、1人の教師、そして1本のペン、1冊の本が世界を変えるのですというような文章をそのまま引用しています。キング牧師の「I have a dream」と同じように、単純な英語でありながら、非常に心を揺さぶる内容です。そしてまた、単純なだけに覚えやすい、そういう英語に触れることによって学ぶ意欲も湧くのではないかと思いますし、決してそんなに難しい表現をしなくても会話ができるということも分かってもらえるだろうと思います。

その点を付け加えて、「開隆堂出版」の教科書がよいのではないかと思います。

○長岡教育長 池田光司委員、お願いします。

○池田（光）委員 私も「開隆堂出版」を推したいと思います。

つくづく考えてみますと、英語を学ぶ目的の中に、物語や歴史や出来事など、いろいろなことを学ぶための英語であるという原点に戻ったときに、例えば、トルコと日本の関係、非常に深みのある、出会うべくして出会った物語を上手に取り入れている点で非常にポイントが高いと思います。ほかのところもありますが、各分野にわたって「開隆堂出版」はストーリー性が非常に優れているということで、本来、英語に興味をもつ教科書になっていると理解しています。

そういう意味で「開隆堂出版」を薦めたいと思っています。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私は、3者とも、中身に関してはそんなに大きな差を感じてはいませんが、その中でも「開隆堂出版」の巻末資料の使い方がほかの2者に比べると非常に特長があると感じました。例えば、巻末ページに単語と熟語が非常に分かりやすく表現されているというところや、振り返ることができるようになっているところです。

それから、チェックリストがついていて、自分はここができたか、できなかったかという自己評価が非常にしやすいものになっていて、その状況で次の学年に進んでいけるというところがほかの教科書に比べると特長のあるところかと感じましたので、私も「開隆堂出版」がよいと思います。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 私も、「開隆堂出版」の教科書がよいと思いました。

英語に関しては、英語という言語を習得するという目標もあると思いますが、コミュニケーションについて考えるという面も大きいと思います。

そういった視点からしますと、「開隆堂出版」の教科書には、例えば、賛成意見、反対意見を言おうという形でディベートのことが紹介されていたり、日本文化を紹介しようということがあったりして、自分たちが考えていることを英語で表現してほかの人に伝える、かつ、クラスの中でほかの生徒と協働で行うというプロジェクトなどが豊富に取り上げられていると思います。そのように、コミュニケーション力を高める、あるいは伝え合うということに関して充実しているのが「開隆堂出版」の教科書だと思いました。

○長岡教育長 皆さんとも「開隆堂出版」ということです。

特に特色のあるところとして、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの巻末の資料が非常に使えるものではないかということが1点です。それから、マララさんなど、心を揺さぶる教材が採用されているということなどから、「開隆堂出版」ということです。

外国語については、皆さんのご意見で、「開隆堂出版」がより望ましいのではないかということですのでけれども、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、外国語については、「開隆堂出版」を選定することとします。

続きまして、技術・家庭について審議を続行します。

技術・家庭は、7月29日（水）の審議において、技術分野、家庭分野のいずれにおいても対象となる「東京書籍」「教育図書」「開隆堂出版」の3者を選定の候補としましたので、技術分野、家庭分野のそれぞれについて、この3者から1者を選定します。

技術・家庭については、前回、家庭分野のみ質疑が十分ではなかったような気がします。もう少し質疑を補足できればと思いますが、よろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、家庭分野についてご質問いただければと思います。

○白井委員 私は、幼稚園に伺ったときに、中学生が幼稚園にやって来ていたのですが、家庭科の先生が来ていたので話を聞くと、保育か何かの1つとして行っているということでした。現実には、このように体験的な学習をセットにして、調理は調理室でしますが、育児、保育の関係は、体験的活動を必須のものとして位置付けているのでしょうか。それとも、選択的なことで各学校に任せているのでしょうか。

○岩淵研修担当係長 基本的には、幼児の触れ合い体験ということで学習指導要領の中で位置付けられています。ただ、学校の実情があり、地域によっては、幼児に触れ合えるような環境になく、そういう学校がある場合については、例えば、学校の中でロールプレイングで体験活動をするということになっていますが、基本的には触れ合い体験をするということになります。

○池田（官）委員 問題解決的な学習に関連してお聞きしたいのですが、「東京書籍」の教科書を拝見すると、例えば、14ページに、問題を解決する道筋ということではっきり提示されていると思います。一方で、「開隆堂出版」は、全体を通して、身近な問題に関する話題提供や発展という形でさらに進んだことが出ています。「東京書籍」のように、問題を解決する道筋ということをはっきり提示していないまでも、両者、身近な生活の中から課題を発見し、それをさらに改善していくための方策が発展といった形で提示されているといった特長があるように見えますが、今言ったような問題解決型の学習ということから両者の特長があれば教えていただきたいです。

○岩淵研修担当係長 「東京書籍」については、問題解決的な学習の流れを初めに示しています。ページ数で言うと、14ページ、15ページです。この流れに基づいて教科書の中の構成が進んでいくかと思えます。

「開隆堂出版」については、例えば電子レンジを使ってみようなど、探究という形で、これまで学んできた知識を活用しながら深められるような実践例を示しています。

それから、「開隆堂出版」の36ページにあるように、問題解決的な学習の関わりという点からいくと、初めに話し合ってみようという形で子どもたちに投げかけています。はてなマークがありますが、さらにこのように課題を解決していこうという形で問題を投げかけて、本文の中に問題解決的な学習の流れを入れ込んで構成しているのが特長かと思えます。

○山中委員 安全に対する配慮の取扱いについて、それぞれ見開き1ページぐらゐを使って書いているようですが、多少、力点の置き方が違う、あるいは取組の仕方が違うという気もするのですが、その辺りはどうでしょうか。

○岩淵研修担当係長 安全についての配慮ということですが、技術・家庭科という教科が安全と表裏一体でして、必ず掲載されていることがあります。例えば、「東京書籍」は、実際に内容に入る前に、このように安全に配慮しなさいというページを設けています。ここの部分が大きな特長と言えるかと思えます。

「開隆堂出版」も、本文の中にも同じように、100ページ、101ページにございますが、安全に配慮しようという記載があります。「東京書籍」と違って、中の方に入れ込んでありますが、このように安全に配慮するということです。

「教育図書」についても同様に、安全に配慮しようという記載があります。

まとめて言いますと、特長としては、どこに入れ込むかという構成の違いになってしまいますが、「東京書籍」において、一番初めの導入段階で安全についてしっかりと学ぶという構成になっています。

○山中委員 お聞きしたいのは、高齢者や幼児に対する配慮などの点で、少し違っているような感じがしたのですが、家庭の中で起きる事故などの関係のところではどうでしょうか。

○岩淵研修担当係長 今、委員からご指摘がありましたように、例えば、子どもや高齢者に対しての安全については、住まいに関わる内容を指導することになっており、そこで触れられています。

「東京書籍」138ページをご覧くださいければと思います。住まいの安全という

ことで、このような実習例を通して子どもたちに考えることを促しているのが1つの特長かと思います。

「開隆堂出版」157ページを見ていただければと思います。同じく家庭内の安全ということです。「開隆堂出版」の特長としては、高齢者に対してどのような配慮が必要か、あるいは、小さい子どもに対してどのような配慮が必要かということです。初めに、話し合ってみようということで、家庭内の安全について子どもたちに考えさせ、さらに、はてなマークがありますが、高齢者や幼児を学校に迎えるための安全対策について、例えば白内障の方が来た場合ということで、このようなものを製作させます。あるいは、幼児については、視野が狭いので、このようなものを使って自分たちで調べて考えてみようということです。

このように、大きな特長があると思っています。

○池田（光）委員 「教育図書」の6ページに自立度チェックがあり、この導入の表現がとてもよいと思います。要するに、子どもたちがいろいろなことを学ぶに当たって、自立するためのということが再認識として書かれているのは「東京書籍」だけかと思いました。見ていくと、「開隆堂出版」は間接的にそのような表現をされていますが、その辺りのインパクトはどうですか。

○岩淵研修担当係長 自立度チェックは、基本的に、「教育図書」の出だしの部分で、自分自身を振り返るといいますか、そこをきっかけとして学習意欲を高めるところに特長があると思っています。

一方、先ほどお話ししたように、「開隆堂出版」もしくは「東京書籍」についても、自分自身を振り返るというよりも、仲間とともにこういう課題について考えてみよう、話し合ってみようというものをきっかけに学習意欲を高める、その辺りの違いがあると思っています。

ただ、自立度チェックにおけるインパクトとしては、委員がおっしゃるように、非常に大きなものがあると思っています。

○長岡教育長 ほかに質問はよろしいですか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、論点の整理ですが、前回の審議における小委員会委員長報告、前回の質疑応答、ただいまの質疑応答の内容を整理しますと、技術分野の場合は、エネルギーや情報通信などの技術についての適切な評価、活

用、問題解決的な学習の取扱い、安全への配慮などの観点において、それから、家庭分野の場合は、ただいまも幾つかの観点が出ていましたが、身近な環境との関わり、問題解決的な学習の取扱い、安全への配慮などの観点において、それぞれ各教科書の特長や違いがあるように思われましたが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、それらの観点を中心に、札幌の中学生にとってどの教科書が望ましいかということについて、各委員からのご意見をいただきたいと思えます。

山中委員からお願いいたします。

○山中委員 似たようなものという気もいたしますが、総じて、技術分野、家庭分野においても「開隆堂出版」がよいと思っています。

その理由は、いずれも具体的に身近な事例を取り上げて考えていくという進め方になっていると思います。そういった具体例を通して、実生活に近い事柄を考え、実際に活用するというような姿勢で進められているように思ひまして、その度合いが他者よりも強い気がしています。

その意味で、「開隆堂出版」がよろしいのではないかと考えております。

○長岡教育長 池田光司委員、お願いします。

○池田(光)委員 本当に甲乙つけがたく、悩んだ分野のうちの一つです。

特に、先ほど質問させていただいたように、「教育図書」の各内容の導入に当たって、自立度チェックという位置付けは、家庭分野の精神の根本を成すような要素の1つだということでもとても重要視する一方、「開隆堂出版」は、そういう課題を、みんなと一緒にしながら、問題解決の意欲を高めていくようなところが充実しているということで、子どもたちにとってどちらがよいのかということで随分悩みました。

結論としましては、「開隆堂出版」は問題解決の意欲を高めるような工夫が随所にあらわれているという意味で「開隆堂出版」を技術分野とともに示すという方針でいきたいと思っています。

特に、「開隆堂出版」の技術分野については、同じように知識を活用して考えるなど、そういうところも非常に優れていると思います。あわせて「開隆堂出版」の方がよいと思ひましたので、提案させていただきます。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私は、「東京書籍」と「開隆堂出版」の2者がどちらも特長があって甲乙つけがたいと迷っています。その中でも、「開隆堂出版」は、家庭も技術のどちらも、各ページの右上に関連した工具を表示していきまして、子どもたちにとってはここも特長の1つになり、興味を示す要因につながっていくのではないかとということと、要所要所にリンクを使って、例えば、このページは何ページを見てくださいという工夫が非常にあるということを考えると、「開隆堂出版」の方がよいと感じます。

それから、例題がどちらも幾つか出ていますが、その中でも、自分事として考えられるのは、どちらかというところ「開隆堂出版」の方が中学生の子どもたちには実生活に密着した内容の事例が多いという印象を受けました。

そう考えると、技術も家庭も「開隆堂出版」がよいと思っています。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 技術に関しては、「開隆堂出版」の教科書がよいと思いました。

私も、「東京書籍」の教科書と微差といいますか、甲乙つけがたいと思いました。技術と社会との関連を考えていく上で、問題解決的な道筋は両者とも豊富に示されていると思いますが、「開隆堂出版」の方が、生活に生かす学習を具体的にまとめていて、そういう中で社会や環境との関わりに関する情報がやや豊富かと思いました。

家庭科に関しても同様で、「開隆堂出版」の教科書がよいと思いました。

これも、発展や探究など、少し踏み込んだ情報は「開隆堂出版」が充実していると思いました。そういうことを通して、衣食住を中心にした家庭での生活で、それをよりよくしていくためにどうしていけばよいのかをよく考えることができるような内容ではないかと思いました。

また、いわゆる環境のことに関して言うと、「開隆堂出版」の教科書は3Rを超えて5Rについて言及していて、これも今日的ではないかと思いました。

○長岡教育長 臼井委員、お願いします。

○臼井委員 私は、技術分野については「開隆堂出版」を第一の候補に推します。既にご意見があったので、今までになかった点を挙げていきたいと思いません。

「開隆堂出版」を推す1つの理由は、情報モラルの問題を取り上げています。実際に、デジタルで物をつくる、セキュリティーの問題等については「東京書籍」でも扱っていますが、利用するときのモラルの問題です。最近、子どもたちは、いじめなどの場合でも、いわゆるネットいじめ等で、インターネット等の情報モラルの問題が非常に重視されていることを考えますと、このことを1番はっきり取り上げているのが「開隆堂出版」です。

それから、2点目は、栽培のことですが、ほかの者に比べますと、種を植えてからどうなっていくかという全部のプロセスを分かりやすく書いてあります。これは、実際に栽培する上での見通しをもてるという点でよいところかと思っています。

また、3点目も栽培のことですが、土壌の性質と堆肥ということで、堆肥のことを取り上げています。札幌は、フードリサイクル運動で、先般、文部科学省から補助金が出ました。給食等の残った食品を無駄にしないということでのフードリサイクル運動を行っています。その意味で、「開隆堂出版」は、堆肥の問題をしっかり取り上げていることも札幌市の教育に関わって重要ではないかということで、技術科では「開隆堂出版」を推します。

家庭科は、正直に言いまして、「東京書籍」と「開隆堂出版」の差がないと思います。

「東京書籍」のよいところは、教科書の判の横幅が大きくなっており、その分、写真や資料が多く載っています。先ほど保育のことで伺ったのですが、学校によっては必ずしも体験と実習ができるわけではありません。

こう見ますと、子どもの触れ合いの部分について、「東京書籍」は写真が非常に豊富で、実際に直接体験できなくてもよく分かるようになっているという点では、「開隆堂出版」も同じように載っていますが、「東京書籍」の方が判が大きい分、詳しくなっているという点でよいと思います。

その一面、「開隆堂出版」のよいと思う点は、最後のところで、課題学習の進め方というところがあり、その中で、実際に1日の生活の献立をつくってみよう、子育てについてやってみよう、1日3食の献立をつくってみよう、家の安全対策をチェックしようなど、家庭科で学んだことを現実の問題の中で扱っています。ほかのところでも同じようなことが載っているのですが、この場合には、具体的に自分で何々をやってみようという形で、主体的に関わるための具体的なヒントが書いてあるという点で、「開隆堂出版」のとてもよい点だと思っています。

資料として、ビジュアルの面での見やすさという点で見ると「東京書籍」がよいのですが、今言ったように、現実の生活に対するつながりということで見ると「開隆堂出版」の方がよい点があります。

ほかの方のご意見を伺いながらと思っているのですが、今のところ、2つを並置ということです。

○長岡教育長 技術・家庭とも「開隆堂出版」がほとんどでありまして、臼井委員から、家庭科については「開隆堂出版」と「東京書籍」ということでしたが、皆様のご意見も伺ってみたいということでした。

私なりにまとめてみますと、身近な事例を具体的に取り扱っているという観点、問題解決型のアプローチが随所に見られているということで「開隆堂出版」ということでした。それから、臼井委員からは、現実的な実生活においても主体的に学びの意欲を起こさせるような取扱いがされているので「開隆堂出版」ということでありました。「東京書籍」は、技術・家庭の両方とも判が大きいです。それに伴って、写真や資料が豊富で優れているという観点も言われています。

技術・家庭の関係では「開隆堂出版」でよろしいかと思いますが、家庭で、一部、「開隆堂出版」と「東京書籍」というお話がありました。これについてご意見はございますか。

○池田（光）委員 家庭分野で、いろいろな実習例を多様に扱っているということで、各者に共通しているのですが、「開隆堂出版」ではいろいろな事情に応じて体験候補の選択を可能にするようなことがあったと思います。その辺りは、ほかの教科書ではどうですか。

○岩淵研修担当係長 今、委員からご指摘のあったお話は、生活の課題と実践という部分があります。技術・家庭科の中では、家族と家庭生活や、衣生活と住生活、食に関する指導を大きく分けています。その中から1つないし2つを選択して、問題解決的な学習をしていこうという部分があります。それが生活の課題と実践という部分です。その実践例が豊富に掲載されているという特長は、「開隆堂出版」の248ページです。先ほどスクリーンにも映しましたが、後半のところに出てきます。

この中で、1日体験実験をしてみようという実践、あるいは幼児と遊ぶおもちゃづくりという形で、豊富な実践例を記載しているという特長があります。

「東京書籍」についても、後半の方に生活の課題と実践という形で出ているかと思います。252ページからになります。こちらは、実践例はそれほど多くありませんが、一実践の量を増やす形になっています。

「教育図書」については、食に関する指導など、144ページ、145ページですが、それぞれの内容ごとに1実践ずつ入れているようになっています。ですか

ら、3ないし4つの実践ということになります。

○阿部委員 家庭科ですが、「開隆堂出版」では、今、女性にとっても中学生にとってももちろんそうだと思いますが、自分の衣服を収納するところが生活の中でも大きな課題になっています。どこに何をしまうかというところを考えると、収納や保管に関することは、生活に関して子どもたちも課題の1つにしているのではないかと思ったときに、「開隆堂出版」は、184ページと185ページを使って衣服の収納と保管というところのポイントをチェックできるようになっていたり、今人気の近藤麻理恵さんを起用したりしています。

そういう意味でも、生活に密着した踏み込んだ課題の解決法を教科書から学ぶことができるようになっているという点においては、「開隆堂出版」の方が問題解決的な学習を身近なものを例にして分かりやすく表現されているのではないかと思いますので、改めてご提案したいと思います。

○長岡教育長 ほかにございますか。

○池田（官）委員 環境との関連についてですが、「開隆堂出版」と「東京書籍」を例にとると、持続可能な社会を目指してということが両方とも巻頭に提示されていると思います。ただし、「開隆堂出版」では、所々に持続可能な社会をつくるということで具体的な例あるいは考えてもらうような例が幾つか提示されていると思います。持続可能な社会をつくっていくことは、環境において非常に大きなテーマの1つだと思いますが、その踏み込み方については「開隆堂出版」の方が特長があるのではないかと思います。

○長岡教育長 これは臼井委員もおっしゃったところだと思いますが、実生活における主体的な取り組んでいくという事柄が含まれているということです。阿部委員からは、まさに踏み込んだ課題解決、生活上の課題としてそういう記載があるということでした。それから、環境分野において持続可能な社会を目指すという具体的な例もあることが補足で挙げられましたけれども、臼井委員、いかがでしょうか。

○臼井委員 伺ってみればみるほど難しいというのが率直なところですが。

それぞれによいところがあるし、片方の強みがあるところではもう片方は相対的にやや弱いところがあります。

基本的には、どちらが採択になっても、こちらを使うとこちらが困るということではありませぬので、この際、多数の意見に従うということです。

○長岡教育長 ほかによろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 総体的にまとめますと、先ほど来取り上げている観点から、技術分野については「開隆堂出版」、家庭分野についても「開隆堂出版」が望ましいのではないかとということで集約できると思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、技術分野については「開隆堂出版」、家庭分野についても「開隆堂出版」をそれぞれ選定することとします。

次は、音楽一般と器楽合奏について審議を行います。

音楽一般と器楽合奏については、いずれも7月31日(金)の審議において対象となる「教育出版」「教育芸術社」の2者を選定の候補としたので、それぞれこの2者から1者を選定します。

まず、前回の審議を踏まえ、さらに各委員からご質問がありましたらお願いします。特にございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、質疑応答の内容を整理してみますと、観点として、音楽一般の場合は、音楽のよさや美しさを感じ取る活動の取扱い、日本の伝統音楽の取扱い、学ぶ意欲を高める工夫など、器楽合奏の場合については、箏の奏法など基本的な技能の取扱い、演奏形態の選択に関する事などの観点において、それぞれ各教科書の特長に違いがあるように思われます。

そのような観点でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたち、中学生にとってどの教科書がより望ましいのかということについて、各委員からのご意見をお願いします。

池田光司委員からお願いします。

○池田（光）委員 3つの観点の中で、甲乙つけがたいということが感想としてあります。

何に違いがあるかをいろいろと探ってみた中で、「教育出版」は、音楽の文化について、常に考えさせるようなところが非常に多く、そのことが音楽を楽しむところに向かっていけるのではないかと考えているところが1番強いところだと感じます。同時に、楽譜の情景や写真も多くて、また、その内容も幾つか表現されていて、イメージも膨らませやすいというところも「教育出版」の特色で、それが1番大きな特色であると思います。

日本の伝統文化の取扱いなど、その他の観点については非常に似たようなところがあって、甲乙つけがたいところがあるので、先ほど言った文化やイメージを膨らませるところをもって「教育出版」を推薦したいと思っています。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私はまず、音楽は、「教育出版」がよいと思っています。両者とも非常によいと思いますが、「教育出版」の日本の伝統音楽の取扱いに関しては、踏み込んだところまで表現されていると感じたので、「教育出版」がよいと思いました。

それから、器楽に関しては、2つともよいとは思いますが、どちらかということ、「教育出版」は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらを使っても学習ができます。今、札幌の場合は、ソプラノは持っているけれども、アルトは持っていないというお話もありましたし、もちろんどちらかということもあると思います。そう考えると、どちらを活用しても学習できる「教育出版」の方が札幌の子どもたちには合っているのではないかと感じています。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 音楽に関しましては、「教育出版」の教科書がよいと思いました。

理由は、例えば、展覧会の取扱いに象徴されていると思いますが、「教育出版」では、もととなっている絵や写真を非常にきれいにしています。対して、「教育芸術社」のほうは、知識といいますか、音楽に関する文字による表現が充実していると思います。

ただ単に音楽を聞くということだけではなくて、自分の中で音楽により引き起こされるイメージあるいはその音楽が何を表現しようとしているのかというイメージが非常に大事だと思います。展覧会の絵に象徴されるように、ほかの

箇所でも「教育出版」の方がイメージとの結び付きということではよろしいのではないかとこのところに至りました。

器楽に関しても「教育出版」がよろしいと思いました。例えば、リコーダーの奏法などに関して両者を比べると、「教育出版」の方がタイミングのあり方や詳しいところまで出ていることがあります。また、最後にギターのコード表などもついていますが、ただ単にダイアグラムだけではなくて、実際の手の写真なども載せており、器楽の奏法全体について、「教育出版」の方がやや情報が多いと思いました。

○長岡教育長 白井委員、お願いします。

○白井委員 音楽一般については、「教育出版」を第一に推したいと思います。

その理由ですが、1つは、この中で、「時計台の鐘」が合唱として出ています。これは、札幌市民として札幌市への愛着を子どもたちにもってもらおうことにとっても、実際にこの曲を2年生、3年生が合唱として歌うということは、ある意味で郷土への愛着ということもあり、親しみをもたせるという意味で大事で、これが載っていることが大きい点です。

それから、2点目は、日本の伝統的な音楽についての扱いが大きいということも「教育出版」の理由です。

3点目の理由は、音楽の知識に関するいろいろな要素として扱っている量が「教育出版」の方が多いということです。

以上の3点で「教育出版」を第一に推したいと思います。

それから、器楽については、正直に言ってあまり差がないのですが、その中で、音楽と同じように「教育出版」を推したいと思います。

その理由としては、小学校のときからの継続性で、リコーダーのことです。今、中学校での音楽は1時間という扱いの中で見ると、小学校とは別のリコーダーを中学校で購入するということは、保護者への負担を考えてもなかなか難しいし、新たなものでなければいけないという根拠を見つけることは難しいので、できれば小学校と同じもので指導できるという内容になっているのが「教育出版」です。その意味で、私は「教育出版」を第一に推します。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 私も、基本的にどちらも「教育出版」がよろしいのではないかと考えています。

今まで皆さんからご指摘があったことに特に付け加えるほどのこともありま

せんが、札幌の子どもたちにとって親しみやすいという点では、「教育出版」にはKitaraのパイプオルガンも載せられています。それからまた、日本の伝統音楽の関係も、皆さんのご指摘のように、取り上げられている写真、背景、情景、その写真もそれにふさわしいようなものが取り上げられていて、イメージを膨らませやすいというのはそのとおりかと思います。

ただ、その点で若干注文をつけると、例えば、「ふるさと」などを考えてみても、最近では、ふるさとと言って必ずしも田舎の風景でよいのかという問題はあることはあるかと思います。それから、「早春賦」についても、正直に言って、ここに上げられているのは雪の中の風景で、雪解けが始まったような風景ではないので、その辺りは考え直していただいた方がよい気がしますが、基本的には、日本の伝統音楽のことを考えて、それにふさわしい情景写真を選んでいるようなところはそれなりに工夫されていると思います。

それから、器楽合奏の関係では、現実的なリコーダーの使用の関係でやむを得ないと思いますが、どちらのリコーダーを用いても学習できるようにしておかないと困ることになるだろうというところはあると思います。

それから、「教育出版」は、巻末に取り上げられている名曲旋律集のほとんどが音楽一般のものと関連した曲になっています。そのことが「教育出版」の教科書を選定する上での理由になるという気がします。

○長岡教育長 観点として3、4点あったと思います。

まず、日本の伝統音楽を多く扱っている点、イメージを膨らませることができそうな工夫がなされている点、具体的には、Kitaraのパイプオルガン、「時計台の鐘」に市民としてふるさとへの愛着を感じさせる点というご意見がありました。

それから、器楽で大きいのは、やはりリコーダーの関係でした。ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらを用いても学習できるような配慮がされているという観点からご意見があったと思います。

そういった観点から、音楽一般については「教育出版」、器楽合奏についても「教育出版」が望ましいものと皆さんは受け取っていらっしゃるということで集約できると思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、音楽一般については「教育出版」、器楽合奏についても「教育出版」をそれぞれ選定することといたします。

次に、社会について審議を行います。

まず初めは、地理的分野について審議を行います。

地理的分野については、7月29日（水）の審議において「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者を選定の候補としたので、この3者の中から1者を選定します。

まず、前回の審議を踏まえて、さらに各委員から質問がありましたらお願いします。特にございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○**長岡教育長** それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答などの内容を整理すると、地理的分野の場合、北海道の地域的特色の取扱い、アイヌ民族に関する記述、資料を活用して問題解決する学習の取扱いなどの観点において、各教科書の特長や違いがあるように考えていますが、こういった観点でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○**長岡教育長** それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたち、中学生にとってどの教科書がより望ましいのかということについて、各委員からのご意見をお願いします。

阿部委員からお願いします。

○**阿部委員** 私は、「教育出版」がよいと思っています。

その理由の1つとしては、まず、札幌や北海道の地域的特色の取扱いにおいて、「教育出版」では、農業の輸出拡大のこと、育てる漁業で苦境を脱したことなどの状況が非常にリアルに分かりやすく表現されているところがほかの教科書に比べると特長的だと思いました。

それから、資料の取扱いにおいて、北方領土や竹島、尖閣諸島の位置と範囲について、歴史的な経緯を踏まえて、非常にわかりやすく、写真なども使いながら表現されているという理由から、「教育出版」がよいと思っています。

○**長岡教育長** 池田官司委員、お願いします。

○**池田（官）委員** 私は、「東京書籍」と「教育出版」で非常に迷うところがあったのですが、「東京書籍」の教科書がよいと思いました。

その理由ですが、例えば、「教育出版」と「東京書籍」の北海道のところを

見てみますと、「東京書籍」では、最初に十勝平野の写真や各地域の写真が出ており、地方の特徴を全体的に身近に大づかみしやすい形になっていると思います。これは、ほかの地域においても同じで、まず、その地域の比較的大きな写真が出ており、そこからイメージをつくっていくというつくりになっているところに特長があると思いました。

さらに、「東京書籍」では、「深めよう」や「地理スキル・アップ」という記載を通して、資料を活用する力、資料を見ていろいろなことを読み取っていく力をつけるような形が特長だと思いました。各単元の導入のところに比較的分かりやすい図が出ているということと、資料活用について、「地理スキル・アップ」などで配慮されているということから、私は「東京書籍」の教科書がよろしいと思いました。

○長岡教育長 白井委員、お願いします。

○白井委員 私は、2つあり、1つは「教育出版」、もう1つは「帝国書院」です。

この順位付けは難しいのですが、「教育出版」で特に薦めたいところは、地理についてのことで、冒頭の「地理にアプローチ」というところで、地図やグラフの読み取り方が載っています。地理の学習にとって、地図情報をどう正しく読み取るのが大事なところなんです。このところが冒頭に出てきます。また、資料の読み方を最初に学んで次へ行くということになっているので、非常に重要なところが最初に出てきています。

それから、身近に世界の地域を感じるというところで、例えば、14ページを見ますと、オーストリアという国は北海道をちょっと大きくしたようなもの、スイスは九州本島よりもちょっと大きなもの、シンガポールは奄美大島と同じようなもの、バチカン市国になるとディズニーランドと似たようなものなど、ある種、相対化して、現実としてイメージできるようなものをつくっており、なかなかよいつくりをしていると思いました。

それから、第3点目としては、北海道あるいはアイヌ民族に関わる記述です。これについては、3者の中で「教育出版」が最も多くカバーしていて充実しているという点がよいところだと思いました。

その一方で、「帝国書院」もなかなかよいと思ったのは、例えば、世界の地域の雨温図が載っているところがあります。「帝国書院」の教科書で感心するのは、例えば、南アメリカのクスコを東京と比べたり、シベリアのヤクーツクも東京も比べたりして、全て東京を並置してやっているところで、そうか、東京とでは夏冬の雨量がこんなふうに違うのだということを見られるという点で

は分かりやすいと思いました。

それから、これは本質的なことではないのですが、写真がものすごくよいと思います。例えば、84ページですが、ベースボールのロサンゼルススタジアムなどを見ると、すごい車で、スケールを直感的に感じさせるという点でうまく使っているところで、「帝国書院」もよいと思いました。

強いて2つのうちのどれかと言え、わずかですが、「教育出版」を推したいと思います。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 私は、総合的に考えて「教育出版」がよろしいのではないかと考えています。

ご指摘のとおり、いろいろな特色があるかと思いますが、中でも、先住民族であるアイヌの人たちの文化をきちんと捉え、詳細に説明しているところが大きいと思います。

それから、北海道の農業、漁業などを北海道の産業としてきちんと捉えて地域への関心を高めることを考えているところは大きいと思っています。

○長岡教育長 池田光司委員、お願いします。

○池田（光）委員 私は、「帝国書院」と「教育出版」で随分悩みました。

「帝国書院」は、先ほど臼井委員がおっしゃられたように、写真も含めて、圧倒的に吸い込まれるようなイメージが非常に強く、捨てがたいと感じています。

「教育出版」は、北海道農業と漁業について非常に細かく書かれています。むしろ、厳しい中での北海道農業のあり方や、魚のとり方、育て方という新しいところにも挑戦していて、地域への関心を高め、広がりのあるような展開になっているのではないかと思います。そういうことで、「教育出版」の方がややリードかと思っています。何回も試行錯誤していく中で、アイヌ文化についても、やはり「教育出版」が優れており、私から見ると、比べてそちらの方が高いということで、「教育出版」を薦めたいと思っています。

○長岡教育長 5名のうち4名が「教育出版」ということでした。

論点としては、まず、北海道の産業、農業、漁業について、非常に厳しい中での取組として関心を高める記載が充実しているということでした。それから、先住民族であるアイヌの記述ですが、文化等について詳細に説明がなされてい

るということがよろしいのではないかというお話でした。

それから、池田官司委員は「東京書籍」ということでした。北海道を地域として身近に把握しやすい、イメージしやすいということでした。それから、スキル・アップについての技術、資料を活用する力などの観点から、「東京書籍」が秀でているのではないかというご意見がありました。

総合的な意見としては「教育出版」が多かったのですが、それについて、さらに議論を深めるとして、ご発言はございますか。

○池田（光）委員 「東京書籍」は、先ほどご説明があったように、グラフなど資料を読み取って展開していくところは優れているところだと思います。

改めてですが、ほかの教科書ではその辺りのところはどうなっていますか。

○工藤企画担当係長 資料の読み取りについて、「教育出版」から見ていきたいと思います。北海道のところではないのですが、アメリカの農業について載っております、85ページの上をご覧ください。

北アメリカの農業を学習する上で一般的な主題図が載っていますが、農業地域の様子を降水量とあわせて関係を読み取らせるようなところで読み解こうということで、地図の読み方なども示しながら資料を活用して課題を解決していくという工夫は「教育出版」にも見られます。

同じようなところを「帝国書院」でも比較して見てみようと思います。「帝国書院」は81ページです。

こちらは、先ほどの「教育出版」にあった「読み解こう」という小さなコーナーが設けられているわけではないですが、同じような地図資料を用いてアメリカの農業について考察するという資料を使った構成になっています。

○池田（官）委員 先ほどからお話が出ていますが、確かに、「東京書籍」は資料を読み解くというところに特長があると思います。一方で、アイヌ文化などアイヌのことに関する記載では「教育出版」が充実しているというのはそのとおりだと思います。札幌の中学生が使う教科書としては、「教育出版」の教科書が選ばれたとしても納得できる場所でもあります。

○長岡教育長 先ほど、観点として、北海道の農漁業、北海道産業の関心を高めるという観点、それから、アイヌの記載について、「教育出版」は掲載箇所が多い特色があるという選定理由が出ており、それについて、池田官司委員からも、その観点であれば納得できるというご発言がありました。

そういうことで意見は集約できたと思いますが、地理的分野については、「教

育出版」が望ましいということによろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○**長岡教育長** それでは、地理的分野については、「教育出版」を選定することとします。

次に、歴史的分野について審議を行います。

歴史的分野については、7月29日(水)の審議において「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者を選定の候補としたので、この3者から1者を選定します。

まず、前回の審議を踏まえ、さらに各委員からご質問がありましたらお願いします。

○**阿部委員** それぞれの教科書に年表の記載が要所要所にあると思いますが、実際の授業の中で、年表はどういう取扱い方をされているのか、教えていただきたいと思います。

○**伊達義務教育担当係長** どの教科書にも、教科書の一番後ろに見開きの年表があります。それぞれの単元、毎時間の授業の中で出てくる年表にスポットを当てて見るような形になります。そちらだけで確認をする場合がありますが、いわゆる歴史の一番大事なポイントというのは、起こったことだけにポイントを当てるのではなくて、その背景に何があるかということも踏まえて理解していくことが必要です。年表ということになると、例えば、世界とのつながりや、もっと過去にさかのぼって検証する、そうすると巻末の年表を使うことも十分あるということになります。

ですから、その授業の狙いによって、こちらを使うのか、教科書の中の年表を使うのかというのは分かれるかと思えます。

○**池田(光)委員** 確認ですが、「東京書籍」の章の初めでは時代の転換期が分かるような表現になっていて、ほかのところもそうになっていますが、もう一度、比較をご説明いただければと思います。

○**伊達義務教育担当係長** 今ご指摘があった「東京書籍」ですが、いわゆる時代の導入部分で、年表が冒頭にあります。そのように、これから学習する内容について、見通しがもてるような内容になっています。こちらの内容については、小学校のときに学習した内容が年表として挙げられていますので、それを

思い出しながら、これからこういった時代を学習するのかという見通しをもてるようなものになります。こちらは63ページです。

続いて、「教育出版」の53ページになります。

こちらも、基本的に、導入部分としては、こうした形で大まかな年表があり、これからの学習の見通しを大きな捉えでもつことができるようになっていきます。

最後に、「帝国書院」です。50、51ページをご覧ください。

前回も話題に上がっていたタイムトラベルが時代の導入部分となっています。

「帝国書院」の大きな特長は、絵で子どもの視覚に訴えるような形で興味を引き出す工夫がなされています。さらに申しますと、これは鎌倉時代のタイムトラベルのページですが、その前の奈良時代を眺めてようというタイムトラベルのページを比較し、どういう違いがあるかを問うことによって、子どもたちのなぜという疑問を引き出すことが可能な内容となっています。

○**臼井委員** タイムトラベルについて質問です。

これについては前回もいろいろな評価があったと思いますが、今回は次の場面を探してみようという設問があります。この設問は今回からですか。前回もありましたか。

例えば、50ページの鎌倉時代を例に挙げると、次の場面を探してみようということで、「屋敷の周りには堀が巡らされています」「次のアからカのどれに当たるか」という設問は前回もありましたか。

○**伊達義務教育担当係長** 現行教科書にはないです。そこは、より詳しくなっています。

○**臼井委員** 今回から設問を入れたということですね。

○**伊達義務教育担当係長** はい。

○**臼井委員** 分かりました。

○**池田（光）委員** 「帝国書院」にトライアル歴史というものがあったと思います。あれと趣旨が似たようなものはほかの教科書にもあるのですか。

○**伊達義務教育担当係長** 106ページ、107ページになります。

こちらは、言ってみれば発展的な内容のページになっており、さらに歴史を深めていくという特設ページになっています。

ご指摘の「帝国書院」については、こういう特設ページが2ページ設けられていますが、この2ページについては、他者と比べるとかなり発展的な扱いをしています。ただ、歴史を深めようという特設ページについては、どの者でも取り上げているところです。

○長岡教育長 ほかによろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長のご報告、質疑応答の内容で、観点の整理ですが、歴史的分野の場合については、アイヌ民族の人権や北海道の歴史の取扱い、問題解決的な学習の取扱いの観点などにおいて各教科書の特長や違いがあるように思われますが、そういった観点でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、そういった観点を中心に、札幌の中学生にとってどの教科書が望ましいのかということについて、各委員からご意見をいただきたいと思います。

池田官司委員からお願いします。

○池田(官)委員 私は、非常に迷って、なかなか難しいのですが、「帝国書院」の教科書がよろしいと思います。

先ほど話題にも出ていましたが、タイムトラベルという形で、視覚に訴えて因果関係や歴史的な変化について関心を高めるといった特長は、課題発見、問題解決という観点からは好ましいのではないかと思いました。

一方で、アイヌ民族の取扱いについては、同化政策という言葉が使われているのは「東京書籍」「教育出版」だと思います。「帝国書院」では、同化政策という言葉としては使われていないかと思います。日本国民にするための政策という言葉が使われていますし、そのほかにも、アイヌ民族に関する記載は各者それぞれきちんとされていると思いますが、「帝国書院」にもそこが記載されていると思います。

今言ったようなことから、「帝国書院」の教科書がよろしいと思いました。

○長岡教育長 臼井委員、お願いします。

○白井委員 私も、歴史分野については第一に「帝国書院」を推したいと思います。

理由が幾つかありますが、1つは、前回もプラス点として挙げたタイムトラベルです。歴史というと、どうしても制度史のような位置付けになっていて、そのときに人々がどんな生活をしていたのかというところが同時に見えにくいところがありました。しかし、タイムトラベルを見ますと、制度も見えるし、農業の生産あるいはそのときの集落の状況など全部をこの中から見てとれるという点があり、歴史について苦手な子どももここから歴史に関心をもつというところにメリットがあると思います。

ただ、前回問題だと思ったのは、情報がものすごく多様なため、あまり授業とは関係ないようなものまでやって子どもたちの話題になっていくという可能性がありました。しかし、今回は、「あいうえお」とやっていって、それぞれについて何に当たるかという設問を設けたことによって、子どもたちの思考を焦点化する仕組みをつくったという点で、今回のタイムトラベルは前回よりもかなり工夫があったと思います。

それから、歴史については、歴史を探ろうというところで一步突っ込んで歴史に興味をもち、さらに発展的なものとしてトライアル歴史があります。今、ドラマもそうですが、いろいろな番組の中でどんどん子どもが歴史を好きになっており、子どもたちのニーズにも合うようになっていきます。歴史好きになるとともに、過去の話ではなくて、現代社会と過去のものどうつながっているかを見ることができればと思います。できれば、タイムスリップして、その歴史のところにいるようなイメージができるという点ではこの教科書が最もよいのではないかと思います。私は「帝国書院」を推します。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 タイムトラベルに関しての私の評価は少し違います。つまり、これを一覧にしてみた場合に、各時代の違いがあまり分かりません。色も似たようなものですし、農業社会ですからしょうがないと言えばしょうがないのですが、田地田畑が出て、農業の様子が出てはきますが、服装も似たようなものです。もちろん時代によって少しずつは違ってくるけれども、時代としての区分けという意味で、このタイムトラベルでは、正直に言って私にはイメージが湧かないし、みんな似たようなものではないかという感じがしてしまいます。工夫としてはよいのですが、もう少し工夫が欲しいという気がしています。

そういう意味で、「帝国書院」は、全体的にはよいのですが、奈良時代から鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代まで来るところのタイムトラベ

ルの見開きのページを見ていると、その時代の様子がぱっと見たときに分かりません。先ほどご説明があったように、「あいうえお」などで説明していますので、それを見れば分かるのですが、見開きのページで時代を全体的に鳥瞰しようというときに、これでその時代が中学生に分かってもらえるのだろうかと思はかなり疑問に思っています。

ただ、「帝国書院」のよいところだと思うのは、北海道の歴史の扱いのところについて、ほかの教科書に比べて北海道あるいは札幌に関わることを数多く取り上げています。そして、数だけではなくて、内容的にもよいと思います。そこは大変よいと思っています。ほかの点では似たようなものかという気がしています。正直に言って、タイムトラベルの部分評価で迷っているところです。

さらに皆様のご意見も伺って、また議論させていただきたいと思います。

○長岡教育長 池田光司委員、お願いします。

○池田（光）委員 私も非常に迷っているところです。

特に、「帝国書院」のタイムトラベルのところはビジュアル的な形で非常によいのですが、今あったように、何か似たようなところもあるので、年表の方が分かりやすいかと思いつながりながら、試行錯誤を繰り返しているところです。

私の決定的な視点としては、北海道の歴史を探ろうという意味では「帝国書院」が1番かと思っています。一方、「帝国書院」の歴史を探ろうについては、もう少し発展していけるような工夫も表現としてあるので、ここは大きなポイントかと思っています。

もう1つは、「帝国書院」は、いろいろな項目の中で、チェックする項目もあり、そこを振り返るようなものが結構多い場面がありましたので、そういうところも踏まえて甲乙つけがたいところが幾つかありますけれども、私は「帝国書院」を推したいと思っています。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私も「帝国書院」がよいと思っています。

私の経験上、1つの時代が分からなくなると前後が分からなくなってしまうので、歴史に対して苦手意識をもってしまう子が比較的多いと感じます。

「帝国書院」の場合は、要所要所に確認してみようというコーナーがあり、説明しようというコーナーがあつて、先ほどから話題になっているタイムトラベルの部分でも、前の時代に振り返ってみて、そこと今やっている時代との関連性においてはつながるところがあると思います。前の時代を振り返りながら、

この時代を学習するという工夫が非常になされていると感じるところであります。そういう意味では、「帝国書院」が一番優れているのではないかと思います。

タイムトラベルの絵に関しましては、私はそういう視点で見ていなかったのですが、山中委員のお話を聞いて、確かにどの時代もものすごく特徴があつて分かりやすく比較できるような図になっているかと言われると、おっしゃるとおりだという面はあります。歴史が苦手にならないように、こういうビジュアルが要所要所に書かれているというのは、ある1つの特長にもなると感じました。

○長岡教育長 タイムトラベルの評価が分かれています、肯定的な見方をするとすれば、各時代の人々の生活の様子を描いたイラストがあり、比較的、子どもたちが関心をもつ、そして考察していけるものではないかという評価もあります。それから、「帝国書院」は、北海道の歴史についての記載が多く、しかも内容的にも掘り下げた記載、記述があるということで、資料等の掲載もあつて、学習課題を深めるようなことにも役立つという評価があつたように思われます。

皆さんから上がってきた教科書名は「帝国書院」だつたと思いますが、皆さんのご意見が出そろつた中で、さらにご意見等はございますか。

○山中委員 皆さんのご意見を伺つて、基本的には「帝国書院」でよいかと思います。ただ、タイムトラベルに書いてあるものがあまりに欲張り過ぎているのだらうと思います。いろいろな生活、いろいろなものを取り入れようとするために細かくなつてしまつて、その時代の特色がぱつと見たときにわかりません。例えば、大名行列が入つていれば江戸時代だというのはそれで分かります。ただ、生活の場面として描かれているものが何時代か、そう簡単には分からない、説明を見なければ分からないというところがあります。最初の縄文時代は簡単に分かりますが、そういう時代区分に関してのイラストの描き方にもう少し工夫が欲しいというのが私の率直な印象です。かえつて混乱するのではないかとあります。

ただ、そのほかの記述に関しては、ご指摘のとおり、いろいろな面で「帝国書院」がよいかと思いますし、私も、「帝国書院」を選定することについて強く反対するとか、そういうものでは決してないですが、選ぶとすれば、今後、この辺りの工夫はしてほしいという気がしています。

○長岡教育長 ほかにご意見はございますか。よろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 意見が出そろったということで、今、山中委員から、タイムトラベルのあり方について、これは賛否あると思いますけれども、イラストの工夫をもう少ししてほしいということでした。いろいろなものが盛りだくさんで、俗に言う欲張り過ぎていて分からなくなる部分もあり、かえって混乱する部分もあるではないかということでした。

それから、先ほど色彩の関係についてもお話がありました。肯定的意見としては、流れが分かりますし、それぞれの時代の変遷が分かるということもあり、一定の評価はできるとは思います。ただ、先ほどお話ししたとおりの懸念もありますので、そういった部分は、教科書に盛り込む際には今後さらに検討していただければというご意見を付けながらも、歴史的分野については、「帝国書院」を肯定的にというお話がありましたので、「帝国書院」でよいかと思いますけれども、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、歴史分野については、「帝国書院」を選定することとします。

次に、公民的分野について審議を行います。

公民的分野については、7月29日(水)の審議において「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」の3者を選定の候補といたしましたので、この3者の中から1者を選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえて、さらに各委員からご質問がありましたらお願いいたします。ございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告ないし質疑応答の内容なりを観点として整理しましたが、公民的分野の場合は、問題解決的な学習の取扱い、社会参画の視点を取り入れた学習の取扱い、アイヌ民族の人権についての取扱いなどの観点において各教科書の違いや特長があるということで、そういった観点からご議論いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、これら観点を中心に、札幌の子どもたち、中学生にとってどの教科書が望ましいのかということについて、各委員からのご意見をお願いします。

臼井委員からお願いします。

○臼井委員 公民分野について、1位に推すのは「東京書籍」です。

その理由は、今、教育長から、社会参画の側面あるいはアイヌに関わる場所が出ていましたが、社会参画というのは、政治経済の分野ですので、ある面では身近なところでは、特に、政治のこととなると、身近な地方の政治あるいは自治についての関心ということなのです。

その点に関して、例えば、「東京書籍」の場合は、誰を市長に選ぶべきかというところで、実際にそれぞれシミュレーションをやってみて、現実に関わることとして主体的に関わることを行っています。ほかでは、割と記述はしてありますが、「東京書籍」は、具体的、現実的な場面をつくっていて、子どもたちが主体的に政治の問題に参加するという点ではプラスが大きいのではないかと思います。

それから、2点目のアイヌ民族に関わることですが、教科書の46ページの平等権というところで、部落問題からアイヌ問題、在日韓国・朝鮮人問題などがあり、特に札幌市、北海道の関連で言えば、アイヌのことについて載っています。ほかのところももちろん扱っていますが、質と量の点で「東京書籍」が上回っていると判断しました。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 今、ご指摘のあった2点は、おっしゃるとおりだと思います

私も「東京書籍」がよろしいのではないかと考えているという点では、大変具体的に身近な事例を取り上げて考えているということは大いにプラスかと思っています。それから、アイヌ民族の関係についても、オーストラリアの先住民族との関連で比較したり、国際的な観点から検討したりしているということは大変結構なことかと思っています。

もう1点挙げたいのは、インターネットの取扱いです。中学校に入ると、インターネットに関わるが多くなり、スマホを使うなど、いろいろな関係でインターネットにも関わり合いが出てくるかと思っています。これは、家庭での教育の問題もあり、放任されている場合もあるでしょう。そういう中で、何でも学校教育に解決を求めるのはおかしいのですが、学校教育としても、将来の社会を背負って立つ子どもたちがインターネットの功罪を考えていかなければな

らないことは間違いのないことであって、「東京書籍」の場合は、かなり具体的な問題を提示しながら考えるようにしていますし、まとまった形で記述しているように思います。この関係で新しい問題が次々と出てくる中で、よい面と悪い面を考えるように、この問題を1カ所にまとめて整理して取り上げるということをしています。

ほかの者の場合は、別のページにわたったりしながら書いていたように思いますが、その辺りはまとまりがあってよいと思っています。そういったことも加えて、「東京書籍」がよろしいのではないかと考えています。

○長岡教育長 池田光司委員、お願いします。

○池田（光）委員 私は、アイヌ民族その他について、「帝国書院」ではロールプレイングを行う、「教育出版」では掃除問題など身近な問題を例に挙げて「対立と合意」の基礎知識等を明確にしているということでは各者に比較はありませんが、全体を通して、「東京書籍」は、あまりなじみのない、例えば、社会参画の視点を取り入れた学習の扱いにおいて、誰を市長に選ぶか、いわゆる一番身近で響くような言葉で入り口をつくったということは、子どもたちにとってはすごく興味を引くことなのではないかと思っています。

そのほかに共通点があるのですが、「東京書籍」はそういう視点での表現が幾つかありますので、親しみやすい、入り口が具体的だということも含めて推したいと思っています。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私も「東京書籍」がよいと思っています。

理由は幾つかありますが、まず、ほかの発行者と大きな違いだと感じているところは、「ちがいのちがいの」というところを幾つか示していただいている、それがカードの形式になっているところが子どもたちには非常に分かりやすいつくりになっていると感じます。

もう1点は、身近な内容を題材にして問題を解決していこうというところもありますが、例えば、24ページでは、導入部分で漫画を起用していて、アプローチの仕方がすごく上手だと思います。次の次のページでは、部活に関する話を具体的に話し合っていて、どう解決に導いているかということがあります。

例題も、子どもたちになじみのある例題を出しているというところから、ほかの発行者に比べると親しみをもって公民に取り組めるのではないかというところから、「東京書籍」がよいかと思っています。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 私も、特に公民の教科書に関して勉強させていただく中で、市民として生活していくときに知っておかなければならない概念として、「対立と合意」ということと「効率と公正」ということに関する考え方を改めて学ぶことができました。

特に、「東京書籍」の教科書では、全体を通して効率と公正マークを設けてあって、対立と合意、効率と公正という公民の中心的なテーマになり、社会参画を考えていく上で基本になるであろうことが全体を通して学べるようになっていくところが非常に配慮、工夫されている特長ではないかと思います。

そういった理由で、私も「東京書籍」の教科書がよいと思いました。

○長岡教育長 まず、社会参画について、自分たちの問題として主体的に関わるアプローチの工夫、身近な事例、親しみやすく分かりやすい、対立と合意、効率と公正という観点から考えさせるページなどが「東京書籍」は充実しているということでした。それから、アイヌの問題をオーストラリアの先住民と関わらせながらの記載などの観点、それから、インターネットの取扱いの工夫ということも中にはありました。そんなことから、「東京書籍」というご意見で集約されるかと思っています。

公民的分野については、異論がないかと考えておりますが、「東京書籍」ということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 それでは、公民的分野については、「東京書籍」を選定することとします。

社会の最後になりますが、地図について審議を行います。

地図については、7月29日（水）の審議において対象となる「東京書籍」「帝国書院」の2者とも選定の候補としたので、この2者から1者を選定します。

まず、前回の審議を踏まえて、さらに各委員からご質問がありませんか。

○阿部委員 実際の授業での地図の活用の仕方をもう一度教えてほしいのですが、先生から子どもたちに地図を開かせるときに、先生はどのようなアプローチをされるのですか。例えば、何々州を探してくださいというアプローチなのか、何ページ目を見てくださいというアプローチなのか、そのアプローチの仕方を事前に教えていただければと思います。

○工藤企画担当係長 通常は、1時間で扱う学習内容が授業の初めに提示されますので、教師は、当然、その該当ページを子どもたちに指示して、そこを開いてもらう形でやるのが通常かと思えます。

○長岡教育長 ほかにございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、地図について、前回の審議における小委員会委員長の報告、質疑応答の内容なりの整理をした上で、地図の観点としては、鳥瞰図の見やすさや領土の取扱い、歴史学習との関連などの観点において2種類の教科書の特長や違いがあるように思われます。

このような観点からご議論いただくということでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の中学生、子どもたちにとってどの教科書が望ましいのか、各委員からご意見をいただきたいと存じます。

山中委員からお願いします。

○山中委員 基本的に、見やすさという問題があると思えます。これは、これまでの自分の経験からどうしても見てしまうのですが、そういう意味では「帝国書院」の方が見やすいと思っています。特に、鳥瞰図などは「帝国書院」が分かりやすいという気がしています。

また、領土、領空、領海の範囲を模式図に示したと思えますが、あれはなかなかよい工夫だと思っていて、大変分かりやすいという気がしています。

さらに、歴史的な関係のこともいろいろ地図に盛り込んでいますし、その点は「東京書籍」も同様かと思えますが、主に地図の見やすさ、特に鳥瞰図です。それから、領土、領空、領海の範囲を模式図に示して分かりやすくしているところを中心に、「帝国書院」の方がよろしいのではないかと思っています。

○長岡教育長 池田光司委員、お願いします。

○池田(光)委員 私は、「東京書籍」と「帝国書院」で随分迷いました。

「帝国書院」は、今もありましたように、鳥瞰図はとても大事ですし、これからもっともっと充実していくべきだと思って、ここのポイントは「帝国書院」が高いと思います。

また、もっと充実すればよいと思うのは、「帝国書院」は、日本とロシアの国境の変遷がわかる地図が北海道地図の上に掲載してありましたが、あれは非常に分かりやすいし、北海道にとっても歴史的意味があります。今後は、もっと国境の変遷が分かるような図面をつくっていただければ、もっと価値が上がると考えています。加えて、領土の広さも同縮尺でやっていただいている、工夫がとても多いと思いました。

ほかの観点は似たところが結構ありますが、その2点が大きく違うということで、「帝国書院」を推したいと思っています。

○長岡教育長 阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私も、「東京書籍」と「帝国書院」はどちらも特長的で迷っているところではありますが、まず、地図が苦手なお子さんのことを考えると、「東京書籍」は、右から開いても左から開いてもインデックスが両方に書いてあるので非常に探しやすいことと、開いたときに、どの地方を開いているかが明記されているという意味では、子どもたちにとっては、今、どの地方を見ているのかが探しやすいと分かりやすいというつくりになっているかと思います。

一方で、「帝国書院」は、先ほどからお話がありますように、鳥瞰図が非常に分かりやすいです。そこが大きな特長かと考えていますので、どちらかという見やすさを追求したほうがよいかと思うと、ちょっと迷うところではありますが、「帝国書院」と思っているところです。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 私も非常に迷っています。

そして、自分自身が比較的なじみの深い北海道のところの資料を見てみますと、地図の枚数に関しても、北海道の資料図に関しましても、「東京書籍」のほうが豊富な気がします。

先ほど地理のところでも申し上げたのですが、資料を見て、そこから何かを読み取らせようということに関しては、「帝国書院」よりも「東京書籍」の方がやや情報が豊富ではないかと思います。

一方で、鳥瞰図に象徴されるような地図そのものの見やすさ、色合いや印刷や紙の質、トータルでの地図の見やすさというのは、「帝国書院」の安定性、

なじみやすさといいますか、そういったことがあり、私は非常に迷うところです。どちらとは言いにくく、ほかの委員のご意見をお聞きした上でまた述べていきたいと思います。

○長岡教育長 白井委員、お願いします。

○白井委員 私は、個人的に地理好きの者としては、地図は大きいほうがよいという単純な論理をもっていて、小学校のときは「東京書籍」の地図が大きかったのを推したのですが、今回、見ていますと、「東京書籍」も「帝国書院」も同じサイズになっています。ですから、もっと別なところで比較して、2点をもって今回は「帝国書院」を推したいと思います。

まず1点目は、日本の大きさと比較して世界各地のサイズを想像できることです。例えば、59ページ、60ページはアメリカの東海岸からほぼ全体ですが、日本列島の北海道から沖縄までと比較しています。世界各地のものの中に北海道の一部が入ったりしていて、日本のサイズとの比較でほかの地域の大きさが想像できるということで、これは関心をもてることです。

例えば、ヨーロッパというのは、1つずつ国があるのもっと大きいと思ったら、飛行機で行くと2つ、3つの国がほんの1時間足らずで行ってしまえるので意外と狭いことがわかります。ある意味で、地図というのは、縮尺の関係で本当のサイズを勘違いしてしまうことがあるので、日本のサイズと比較している点は非常によいと思います。

もう1つ、私たちは、日本列島を相対化するという点で見ると、例えば、31ページ、32ページに東アジアから見る日本列島の地図が書いてあります。私は、南半球のオーストラリアやニュージーランドでつくった世界地図を見ると日本は全く逆に見えてしまいます。そのように、日本中心の日本地図だけではなくて、世界から見ると日本はどう見えるか、「帝国書院」はそここのところが載っている、ある意味では国際的な視野で日本を考えるという点でも「帝国書院」のつくりがよろしいのではないかと思います。

この2点から、私は「帝国書院」を推します。

○長岡教育長 5名の委員の意見を伺いました。

池田（官）委員、いかがですか。

○池田（官）委員 私も「帝国書院」でよろしいと思います。ただし、先ほど阿部委員がおっしゃったようなインデックスのつくりのよさ、先ほど私が申し上げた資料図の豊富さや質は「東京書籍」がかなり特長的であったという印象

をもちました。

その上で、「帝国書院」でよろしいと思います。

○長岡教育長 意見をまとめますと、地図の見やすさ、特に「帝国書院」には鳥瞰図の分かりやすさがあるということでした。それから、これは臼井委員からのご意見ですが、世界から見て日本はどう見えるのかという国際的な視点、視野ということでした。また、縮尺によって大きさが分からなくなるという観点からは、日本の大きさが比較できるような資料も載っているという観点がありました。それから、山中委員から最初にあった領土、領海、領空の模式図も分かりやすいなどの観点から、「帝国書院」で意見の一致があったかと思いません。

ただ、池田官司委員から、インデックスの扱いについて、これは阿部委員が最初に指摘されて、見やすさ観点もありますということでした。それから、資料の豊富さというところもあるということで、今後、そういうことも念頭に考えていただきたいというご指摘もありました。

総合的に勘案して、地図については、「帝国書院」が望ましいのではないかと思われますが、そういうまとめでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは地図については、「帝国書院」を選定することします。

次に、中学校の最後として、美術について審議を行います。

美術については、7月31日(金)の審議において対象となる「開隆堂出版」「光村図書出版」「日本文教出版」の3者とも選定の候補としたので、この3者から1者を選定します。

まず、前回の審議を踏まえて、さらに各委員からご質問がありましたらお願いいたします。ございませんか。

○池田(光)委員 前回は質問がありましたが、「日本文教出版」だけが上下に分かれているところをもう1回説明いただければと思います。

○田中研修担当係長 「日本文教出版」のみが1年生、2・3年生の上、2・3年の下と分かれています。ほかの2者については、2・3年は、学習指導要領の目標自体をまとめていますので、それにあわせて合本となっています。

それぞれに長所と短所があり、合本になっている「光村図書出版」と「開隆堂出版」については、かなり幅広い題材の中から、そのときの生徒の実態など

に合わせた教材の選択が可能であるという部分で特長があります。

それに対して、2・3年の上、2・3年の下に分かれている部分に関しましては、そのときに扱う教材の題材は1つになりますので、生徒が実際に扱うものとして、ページ数がないので、薄くて、持ち運びが便利であるという特長があると思われまます。

○長岡教育長 ほかにございますか。よろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、前回の審議における小委員会委員長の報告、質疑応答の内容を整理して、観点ということでは、美術の場合は、目的をもって学ぶ主体性、自己肯定感を高める工夫、鑑賞する力の向上などの観点において各教科書の特長や違いがあるように思われますが、そういった観点からのご議論ということではよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、池田光司委員からお願いします。

○池田(光)委員 私は、美術については「開隆堂出版」を薦めたいと思います。

それぞれの特色があって甲乙つけがたいですが、特に、今の時代は、我々の企業でもそうですが、文字ではなくてデザインで伝えようということが非常に重要なウエートを占めています。「開隆堂出版」は、そういった工夫が非常に多く扱われていることが一番大きなポイントかと思えます。ほかのところにもそういうところがあるのですが、その点では「開隆堂出版」が一番優れていると思うのと同時に、それに関連して、自己肯定感といいますか、メッセージカードなどをつくって上手に表現するところも含めてプラス要因ということで、「開隆堂出版」を薦めたいと思っています。

○長岡教育長 続きまして、阿部委員、お願いします。

○阿部委員 私は、「開隆堂出版」と「光村図書出版」の2者が非常によいと思って迷っているところでもあります。その中でも、「光村図書出版」を推薦したいと思っているところが幾つかあります。

例えば、自己肯定感となったときに、「開隆堂出版」は、芸術作品を見て他人と違っているところ、他人と同じところはどこかということ鑑賞しながらとなっています。それに対して、「光村図書出版」は、自画像を描いて他人と違うところ、他人と同じところはどこかを探りながら、なおかつ、「手紙～拝啓十五の君へ～」というアンジェラ・アキさんの題材を使っているというところが、子どもたちにとっては、なじみの曲ということもありますし、自分の顔を描くという意味では自己肯定感につながるのではないかと思います。

それから、58ページと59ページに暮らしの中のキャラクターというコーナーがあります。「開隆堂出版」ではキャラクターを使っているところをお見受けできなかったところがありました。この辺りも、子どもたちにとっては、非常になじみの深い部分かと思いましたが、私としては「光村図書出版」がよいのではないかと考えています。

○長岡教育長 池田官司委員、お願いします。

○池田（官）委員 私は、「日本文教出版」の教科書がよいと思っています。

その理由は、鑑賞する力ということから、まず、先ほど池田光司委員からも質問がありましたが、ほかの者に比べて判が大きいということです。判が大きいことにより、1つ1つの作品が非常に大きく提示されています。例えば、浮世絵や仏像など、判が大きいのに加えて、さらに見開きで非常に大きく提示されているものが幾つかあるということです。

それから、全体を通して見たときに、取り上げられている作品の1つ1つが、私にとっては非常に説得力があるものに見えたということです。判が大きくて、取り上げられている作品の説得力といいますか、質といいますか、そういったものがほかの者に比べて非常に優れているように見えるということです。

やはり、中学生にとって、美術の教科書ということですから、取り上げられている作品そのものが魅力的に提示されていることが鑑賞する力を高めていくための基本的なことだと思います。そういった点から、私は「日本文教出版」の教科書がよいと思います。

○長岡教育長 臼井委員、お願いします。

○臼井委員 私は、3者のいずれでもよいと思っていまして、本当に判断に困るところですが、いずれの者になっても異存はありません。

ただ、どれかと言われれば、「開隆堂出版」を1位に推したいと思います。

その理由として2点あります。

1点目としては、子どもたちの自己肯定感を育てるにはというところでもいろいろなアプローチがあって、「光村図書出版」のように、子どものなじみの歌をバックグラウンドにするのもなかなかよいアプローチだと思います。

その一方で、「開隆堂出版」では、自己肯定感に関わることかと思いますが、生徒作品がとても多いです。自分たちと等身大のモデルを多く目にするによって、ある意味で、自分たちはプロの芸術家ではないのだけれども、プロの芸術家に匹敵するようなものをもてるのだということが出来る点では、生徒の作品が多いというところで推します。ただ、生徒の作品が多いということは、逆な面もまたあり得るわけです。この辺りは難しいところです。

2点目は、「開隆堂出版」の教科書には「ふりかえり」というところがありまして、水墨画で言うと、水墨画のよさや美しさに関心をもちましたかとか、水墨画の特徴を生かしてどんなことを構想しましたか等々のポイントを「ふりかえり」という形で確認したり考えるヒントを与えたりオリエンテーションしているというところがあって、私たちが漫然と見てしまうところにある種の焦点化をするようなポイントがついているという2つの点で、「開隆堂出版」ということになります。

○長岡教育長 山中委員、お願いします。

○山中委員 好みの問題かなという気がします。

臼井委員が言われたように、子どもたちの作品が多いというのは親しみやすいと思っています。

比較した場合に、分かりやすくて気になるというのは、ゲルニカの扱い方です。それぞれで大分違うようでして、その絵の背景をかなり細かく描いているところと、簡単に描いているところと、背景については描いていないところがあったと思います。これは、芸術家が描く絵については、その人の生き様や時代背景など、いろいろなことが関わってくると思います。見方として、最初から背景を全部教え込んで、それで見せるのがよいのかというと、必ずしもそうではないのではないと思います。しかし、まず見せて、その上で、これはこういう背景があるということをやちゃんと教えることは必要だと思います。そういう意味で、何も描かないというのはどうかという気がします。描くなら描くで背景をきちんと描くことが必要だと思います。きちんと背景を描いているという点では、「開隆堂出版」が一番よかったかと思います。

ただ、教科書の選定として、それだけをもって決定するということはしがたいです。今の問題にしても、固定観念を植え付け、先入観をもたせるということもいろいろ問題になりますし、なかなか難しいところです。ただ、その問題

だけで決めることはできないので、ほかのことをいろいろと考えなければいけないのですが、正直に言って、本当に好みの問題になってくるような気がしてなりません。

教育委員会として、この会議で決定することはすごく大事なことです。それが教育委員会制度の当然の前提ではあるのですが、これらの教科書を使って子どもたちに教えていく上で、使い勝手というのは、教師の側から見ての使い勝手ということも無いわけではなく、それ以上に、子どもたちがそれを見てどう受けとめるのかというところを考えなければなりません。

先ほど質問しましたが、これらの教科書を使うとしたら、子どもたちの立場から見るとどう考えられるというところを指導主事の方に教えてもらって、さらに考えたいという気がします。

○長岡教育長 今、山中委員からそういった質問ということによろしいかと思いますが、その辺りをどのように考えるか、見解をお知らせいただけますか。

○田中研修担当係長 小委員会の中で上がっていた話ですが、3者とも特長があると言われておりました。その中で、例えば、「光村図書出版」で言いますと、鑑賞の教材の充実が多く見られるということでした。その中でも、彫刻から屏風画の比較というところで、子どもたちが自分の考えをもちやすいような工夫がなされているというところに「光村図書出版」の特長があるというお話がありました。

一方、「日本文教出版」については、判が大きいということと3冊に分かれているということがありますので、出てくる作品、実際の美術作品の数や、実際に扱われている解説の部分ではかなり充実しており、そこを活用していくとよい授業がなされるのではないかという話がありました。

そして、「開隆堂出版」については、ほかの2者と比べて非常に多かったのは、子ども自身が発想や構想を自分なりにもって作品づくりに取り組むということが随所に示されていて、この部分を授業の中で活用することによって、子ども自身が発想や構想を豊かにもち、それをもとにしながら作品づくりに取り組んでいくというところに特長があるということでした。

それぞれ鑑賞や作品数の多さ、発想、構想のヒントの多さに特長が見られましたので、そういうところを加味した上での判断になっていくのではないかと思います。

○長岡教育長 今の説明に対して、皆さんはいかがでしょうか。

○阿部委員 もう一つ質問です。

私の印象や先入観もあるかもしれませんが、「開隆堂出版」に掲載されている作品の中では、どうしても、レベルの高いというか、例えばモナリザが掲載されていたり、芸術的な作品が非常に多く掲載されていて、逆にそれが子どもたちにとって変なプレッシャーになったりしないのかということが気になりますが、その辺りはいかがですか。

○田中研修担当係長 そこについては、小委員会の中で特に話題にはなりませんでした。

道の採択参考資料にもありますが、美術作品の数の多さでいくと、「光村図書出版」の数が一番多くなっており、「開隆堂出版」と「日本文教出版」が大体同じぐらいです。「光村図書出版」「日本文教出版」「開隆堂出版」という順番になっていますので、特に「開隆堂出版」の美術作品の数が多いたとはなっていません。

○池田（官）委員 私は、提示されている作品の豊富さや大きさというところから「日本文教出版」がよいと思ったのですが、違う視点から、いわゆるお互いの感じ方を高め合うという意味合いで、鑑賞したことについてお互いに伝え合ったり話し合ったりディスカッションをしたりという点からはいかがでしょうか。どの者かに特長はありますか。

○田中研修担当係長 3者の中で、代表的な題材の部分を上げさせていただきたいと思います。

まず、「日本文教出版」ですが、2・3年生の下にあります、ここでシャッターを切った理由という部分です。これは前回もお話ししましたが、子どもたち同士のそれぞれ違った視点の作品を交流することを通して違いについてお互いに感想を述べ合うというところがこの中で可能な題材になっていると思われます。

「光村図書出版」に関しては、お互いに感じたことを交流し合うものの代表的な作品としては風神雷神の彫刻と屏風を比較することによってお互いの見方、感じ方を実際に深め合うというところで例が出されていました。

「開隆堂出版」ですと、2・3年生ですが、例えば、富士山をあらわした絵で、様々な技法などであらわしているものを数多く掲示して実際に比較します。さらに、先ほどもお話ししましたが、このようなところに着目して鑑賞していくというヒントとあわせて学習することによって、お互いに感じたこと、1人1人の思いを深めて、さらに交流し合うという部分での特長が見られます。

○長岡教育長 ほかにございますか。各委員とも、決め手がなく、お悩みのようです。

「光村図書出版」をとということで阿部委員がおっしゃったのは、自画像を描かせるという観点から、自己肯定感をもてるように自分を見つめ直すことに有効ではないか、それから、暮らしの中のキャラクターの工夫というお話がありました。

それから、池田官司委員からは、「日本文教出版」をとということでお話がありました。それはまず、版が大きいということと、作品の説得力がほかを上回るのではないかというご意見でした。

「開隆堂出版」をとというご意見としては、生徒作品が多くて生徒たちが等身大で芸術なり美術なりを捉えることができるのではないか、考えるヒントが振り返り、確認になるのではないかということでした。それから、ゲルニカの背景が描かれている「開隆堂出版」ですが、それだけが選定の理由ではないにしても、背景を描いてあるということが評価できるといったご意見でした。

まだ分かれているところですが、さらに観点として発言があればお願いしたいと思います。

○池田（光）委員 私は、「開隆堂出版」の2・3年生の70ページのデザインで伝えるというところが非常によいと思います。ページ数も結構使っていて、子どもたちがデザインを通してどう伝えるかという意識のヒントになっていて、これは現実の実社会でもとても大事な要素の一つではないかと思っています。ここだけ充実している、デザインにつながる、次につながるデザインという形になって展開も非常によいと思います。

ほかの教科書では、同じようなところはどこにありますか。

○田中研修担当係長 まず、「開隆堂出版」については、委員会の中では、ここで特長的なものとして、実際にデザインで伝えるという題材を通して、子どもたちが関心、意欲や課題をもつところから始まって、情報を集めて、発想を広げてアイデアをスケッチして実際に作成する、そして、その後、作成したものをさらに検討していくという授業のプロセスが非常に具体的に示されているところが「開隆堂出版」のデザインで伝えるという部分の特長的なところで、非常に明確にあらわされていて、授業にも生かされるのではないかという話がありました。

「日本文教出版」でもこれと似たようなところがあり、2・3年生の下32ページ、33ページです。同じデザインの中でも、パッケージのデザインを考えるというところがあります。こちらも、写真で行動や作品をあらわしているよ

うな形ではありますが、実際に特徴をつかんで、企画書をつくって、企画を決定して、プレゼンテーションをするという流れを示しています。

「光村図書出版」については、気持ちを伝えるデザインということで、実際に相手を明確に示して、その相手に対してカードをつくる、そのために様々な発想を凝らして作品をつくっていくという題材がこのような形で扱われています。これは、「光村図書出版」1年生の36ページです。

○池田（光）委員 デザインで伝えるというところが現在の美術の大きな要素の1つにもなっているのではないかと思います。そういう意味で、そこは充実していて、なおかつ、今説明があったように、デザインのプロセスをみんなで話し合って表現していくというのは、美術のこれからのあり方の1つではないかと思うので、私はここを一押ししたいと思っています。

○長岡教育長 「開隆堂出版」の「デザインを伝える」ですね。

○池田（光）委員 はい。

○長岡教育長 ほかにご意見はございますか。

美術の場合は、いろいろな感じ方があって、その感じ方を互いにディスカッションして認め合って理解を深める、そういったことが1つの大きな要素になると思います。

その辺りでは、今、池田光司委員がおっしゃった「デザインを伝える」で顕著なのは「開隆堂出版」です。「光村図書出版」にもそういった切り口はありましたか。

○田中研修担当係長 委員会の中では、今出ていたような部分について、生徒にも先生にもプロセスが明確に伝わるという感想が委員の中から出ていました。

○阿部委員 先ほど、私から、「光村図書出版」の自画像を描くということが特長の一つということでお話しさせていただきましたが、「開隆堂出版」でも、美術の2年、3年生の25ページの自分と向き合うというところで自画像の描き方のヒントというところでも触れています。もちろん、「日本文教出版」でも自画像を描くコーナーがありました。そういった意味では、「光村図書出版」の手法は非常に特長があってよいと思ってはいたのですが、池田（光）委員からお話があったデザイン性に関しては、「開隆堂出版」のピックアップの仕方が、これから社会に出る子どもたちのことを考えると、非常に特長的だな

と改めて感じました。

そういった意味では、皆さんがおっしゃる「開隆堂出版」でもよいと今は感じています。

○**臼井委員** 別な視点ですが、デザインではなくて制作のプロセスに関することです。

例えば、「開隆堂出版」の2年、3年のところで「私の道」という東山魁夷の作品があります。この道というのは、青森県の種差海岸の牧場の道ということだけが載っているだけではなくて、そのほか、生徒の作品で、通りの絵があったり、とまりがあったりというだけではなく、次のページに遠近法などの説明が載っていて、実際に絵を描く仕組みのようなことが具体例になっています。

これと同じようなことがあって、「光村図書出版」の2年、3年を見ますと、東山魁夷の「私の道」が載っています。そして、彼のスケッチしたもののプロセスが描いています。たまたま、東山魁夷の「私の道」で両方を比較できるのですが、遠近法や、実際にそれを使ってどんな作品になっているのかという例示の仕方では「開隆堂出版」のほうが詳しいです。

遠近法は、絵を描くときに立体感出すことの1つの重要なことです。しかも、これができてきたのは昔からというわけではありませんが、ある種の発見ということから、現代の芸術家と自分たちが描いたものの共通したことを見いだししていくという点に関しては、「開隆堂出版」の方が具体的にできていると見ていました。

○**池田（官）委員** ほかの委員の皆様のお話を伺っていると、デザインや今の道のことなど、生徒が作品をつくり、美術的に発想することについて「開隆堂出版」の教科書は力点を置かれているということが少しわかってきました。理解が深まってきたような気がします。

先ほどから申し上げているとおり、私は、提示されている作品の豊かさということで「日本文教出版」を推していましたが、生徒の創作活動を後押しする、引っ張っていくという観点からは、「開隆堂出版」の教科書の方がよろしいと思います。

ですから、もし「開隆堂出版」ということになっても異存はあまりありません。了承できるかと思います。そもそも、多少の好みの部分ももちろんありまして、私の好みがあって「日本文教出版」を推していたという面もないわけではないと思います。

○**長岡教育長** 大分意見の集約が図られてきたと思います。

ほかにご意見はございますか。

○池田（光）委員 水墨画ということではなくて、美術の中ではモノトーンの美しさも大事だと思います。「開隆堂出版」の2年、3年の美術の44ページをずっと見ていて、モノトーンの美しさというのが表現をするのにとても大事なことだと思っていますが、ほかの教科書ではどのような扱いになっていますか。

○田中研修担当係長 モノトーンといいますか、水墨画を黒の濃淡であらわすということはどの教科書の中にも見られます。

「光村図書出版」の場合は、松林図屏風があり、実際に生徒が作品をつくるためのヒントの部分があらわされています。「光村図書出版」の2・3年生の18、19ページです。

「日本文教出版」は、22、23ページのところで、墨が生み出す豊かな世界ということで、「日本文教出版」の2・3年上の22、23ページであらわされています。右上に実際に生徒が表現するためのヒントが書かれています。

先ほどお話がありましたが、「開隆堂出版」の2・3年生の場合も同じように作品が取り上げられており、右端になりますが、生徒が水墨画を表現するときのためのヒントが掲載されていて、3者とも大体似たような構造でこの題材が扱われています。

○池田（光）委員 今まで、私は水墨画という観点から捉えていたのですが、今回、モノトーンという見方があるということを知りました。こういう見方は子どもたちにとっては大事なことはないかと改めて感じました。というのは、カラーとモノトーンの関係というのは基礎と応用を含めてとても大事な部分なので、モノトーンという切り口はとても大事ではないかと強く感じました。

○長岡教育長 ほかにご意見はございますか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 阿部委員と池田官司委員からのご発言で、双方とも「光村図書出版」と「日本文教出版」から「開隆堂出版」でも問題はないというご発言がありました。

これまでの議論をまとめますと、互いの感じ方を認め合い、理解を深め合う、考え方を認め合い、共感し合うといった「デザインを伝える」という具体的な

項目で「開隆堂出版」が秀でているのではないかということでした。

それから、臼井委員からも、制作のプロセスないしは仕組みがより分かりやすく表現されているのが「開隆堂出版」ではないかというご意見もありました。

議論を集約するに当たって、ほかにご意見はございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、美術については、いろいろと議論が出ましたが、「開隆堂出版」が望ましいということで集約されると思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、美術については、「開隆堂出版」を選定することとします。

次に、高等学校並びに中等教育学校後期課程用の教科用図書について審議します。

高等学校並びに中等教育学校後期課程用の教科用図書については、審議会から学校ごとにそれぞれの教育課程に応じた選定の候補が挙げられています。

各委員からご質問、ご意見などがありましたらお願いします。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 なければ、高等学校並びに中等教育学校後期課程用については、候補として挙げられた教科用図書を選定するというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、そのように決定いたします。

最後に、特別支援教育用の教科用図書について審議します。

特別支援教育用については、児童生徒の障がいの種類や程度に応じて1人1人に適した教科用図書を提供できるようにするという観点から、各種目とも幅広く選定の候補が挙げられています。

各委員からご質問、ご意見などがありましたらお願いします。

○池田(光)委員 自分で曖昧だったのですが、教科書は大分充実していると思いながら、もっと多面的な教科書が要るということも理解しました。実際に、

こういうものがあればよい、もっといろいろな種類があるとよいなどということが実際にあるのか、もう間に合っているのか、その辺りをもう一度お聞きしたいと思います。

○荻澤特別支援教育担当係長 各学校での教科書の使用状況を学校訪問した際に確認しています。採択されている通常の教科書を含めて、一般図書が幅広く使われている状況です。

事務局で考えるのは、今、道教委で示している図書が313冊あります。今年度は、その中から129冊を選考しておりますが、十分に幅広い内容になっていると把握しております。

○池田（光）委員 特に、我々が住む地域のことがもっと重点にあった方が教育上よいなど、そういうところはどうか。

○荻澤特別支援教育担当係長 例えば、札幌市のまちの内容については、十分に内容の確保がされていないことは事務局で把握していますが、札幌市だけではなくて幅広い地域ということで、日本の地域を学んだり、世界の地域を学んだりということで、子どもたちが分かりやすい教科用図書を準備しているところ です。

○池田（光）委員 例えば、雪や北海道の花、山など、子どもたちはそういうことに反応があるのであれば、そこの充実が必要かと思ったので質問しました。

○山中委員 例えば、これから来年度の教科書を使って授業をするまでの間に、こんな本があって、これを使いたいというものがあっても、教科書としてはもう決まったものがある、それ以外のものは採用できないということになるのだろうかと思いますが、副読本のような形で随時使うということはできるのですか。それもだめということになるのですか。

○荻澤特別支援教育担当係長 今回、札幌市で129冊を用意していますが、ここから選択するのと通常学級から選択する部分があります。そのほかに、子どもたちの状況に応じて必要な本については、先生方が独自に図書館や書店に行って子どもたちに合ったものを準備して教えています。それから、先生方が教材をつくりながら教えるという状況も中にはあります。

○山中委員 ということは、教科書としては公的に使えないけれども、副読本的なものとして、随時、これがよいのではないかというものを使うことはできるシステムになっているということですね。

○荻澤特別支援教育担当係長 はい。

○山中委員 そういう意味では、今、池田（光）委員が言われたようなことは、随時、副読本の形で運用上はやっていけることにはなるのではないかと思います。

○臼井委員 今の件で、普通、小学校、中学校の場合ですと、1つの教科書を1つの教室全部で使うことになります。特別支援教育の場合、A、B、Cという障がいのレベルになっているので、それに合わせての教科書で、例えば、ある学校で小学校1年生の中に3人いたとしても、その3人の子どもの障がいのレベルがAであったりBであったりCであったりということになってきます。そうすると、その中で、Aレベルの子どもにはAレベルの国語に相当するものが5冊ある中で、さらにその子どもの興味・関心とか、Aレベルと言っても違いがあるので、それに合わせて選択するということで、個別的であると理解してよいのでしょうか。

○荻澤特別支援教育担当係長 そのとおりです。ですので、例えばAであれば複数冊、その中でも、子どもたちの状況に応じて、これが子どもにとって有用であるというものを使用しています。

○池田（官）委員 先ほどの議論にありましたように、副読本として伝える本の自由度が高いというのは大変よろしいことだと思います。しかし、選定の候補に挙がっている教科書を拝見すると、例えば、継続で10年以上という本が結構あると思います。これは、定番、評価が安定している本だという見方もできる一方で、内容がかなり古くなっている可能性もあると思います。

そこで、特別支援教育用の一般図書としての教科書の選定というのは、非常に労力もかかるし大変なことだとは思いますが、なるべく本を拡大していくということと、なるべく更新していくことをもう少ししていてもよいのではないかと思います。特別支援教育を受ける子どもにしてみると、13年前と同じ教科書が選定されているというのは、評価が安定していてよいということかもしれないですし、新たに出版されているということではないのかもしれませんが、常に更新していく努力をぜひお願いすべきだと思います。あるいは、古いものは

残しておいて新しいものをどんどん加えていくなど、選択肢をどんどん広げてあげる努力をもう少ししてもよいのではないかと見えるのですが、いかがでしょうか。

○荻澤特別支援教育担当係長 まず、国からは、今年度、13冊の新しい本が出ており、その本についても、調査研究を行って、かなりの冊数を入れているところです。それから、委員から推薦いただいているものは今年度は7冊という状況で、今回はその中から3冊を新しく入れています。計10冊程度の新しいものは入れているのですが、ほかにも313冊がありますので、その中で幅広く検討していきたいと考えています。

○池田（官）委員 継続になっている本についてはどうですか。13年が最長だと思いますが、それについての評価はどうでしょうか。

○荻澤特別支援教育担当係長 まず、授業数もかなりあるということで、子どもたちにとってもかなり有効な本であることは委員の中でも確認しています。表記についても古いという確認はしているのですが、その教科にとってその本は必要だろうということで検討して、今回も選考しています。

ただ、新しい本も含めて今後も検討してまいりたいと考えています。

○臼井委員 今のことに関連して、この障がいのレベルは、知的な障がいに対応するという事だと思えます。最近、発達障がいや学習障がいで、ある面ではものすごく得意だけれども、ある面では全然できないという子どもがいます。例えば、虫になるとものすごくマニアであるとか、そういう子どもに対応するように例えば図鑑を、言語活動は苦手だけれども、図などはすごく得意、あるいは、数字に関してはすごく興味のある子など、その個別的対応はそれぞれの担任の先生がなさっていると理解してよいのですか。

○荻澤特別支援教育担当係長 はい。

子どもによってはいろいろな図書をとっていますので、友達の本を借りて興味のあるものを勉強するなど、友達同士で教科書を使いながら教えているところもあります。ですので、その子に応じた図書を用意するののもとても大事だと思います。

○臼井委員 特別支援の場合の授業は、いわゆる通常学級のように、国語の時間だから国語、算数の時間だから算数というよりも、もっと長い期間で、子ど

もの活動を通じて行っていると思います。別の言い方をすると、1つの教科の枠に縛られないやり方をしているという点では、使い方が柔軟です。ある意味で、これはこれとしてやっても、縛られる度合いが通常学級よりもずっと少ないというのは分かります。ただ、毎年出るときに更新した方がよいと思います。古くてもよいものもあることはとてもよく分かりますが、子どもたちの関心度の大きさをモニターしていきながら、さらなる見直しの努力をしていただくようお願いしたいと思います。

○池田（光）委員 今まで採択をしてきて、教科書に合わせて子どもたちがどこまで1つの目標にできるかという位置付けで考えるのですが、特別支援学校の場合は、逆に、子どもたちに合わせて教科書を選択しなければならないという正反対の関係のようなイメージを受けます。そういう意味では、教科書の採択のあり方については、もしかしたら議論が違うと感じる場面が今回はありました。これは私がもっている感想です。

皆さん、もちろん立派にやられていますが、健常者と同じような形で教科書の採択をやってよいものか、今回改めて感じたものですから、何かの折に議論できればと思っています。

○山中委員 かなり違った配慮をしていることは間違いないですね。

○長岡教育長 そういうことになります。

そのほか、ご質問、ご意見はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 なければ、特別教育支援用については、候補として挙げられた教科用図書を選定することとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長岡教育長 これまでの本日の審議において、中学校用教科書並びに中等教育学校前期課程用、高等学校並びに中等教育学校後期課程用教科書及び特別支援教育用教科書の選定が終了しました。

中学校用教科書をそれぞれ選定した理由については、前回の審議と本日の審議を踏まえ、事務局側でまとめていただき、次回の教育委員会会議で議案として提出していただきたいと思います。

次回は、その選定理由について皆さんで確認した上で、最終的に、中学校用並びに中等教育学校前期課程用、高等学校並びに中等教育学校後期課程用、特別支援教育用を含めまして、平成28年度に市立学校で使用する教科書を採択するという形としたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、事務局での議案の準備をよろしくお願いいたします。

【閉 会】

○長岡教育長 以上で平成27年第19回教育委員会会議を終了します。

以 上